

## キャプチャリング管理アプリケーションのヘルプ

ArcSuite 4.0

## はじめに

このたびは富士フィルムビジネスイノベーションのArcSuite®をご利用いただき、まことにありがとうございます。

一般に、企業活動では、各業務に関する情報はさまざまな形態のドキュメントとして存在しています。ここでいうドキュメントとは、紙に書かれた文書だけを示す狭義のものではありません。紙はもちろんのこと、ホワイトボードに書かれた文字や図表、プロジェクターやテレビに映し出された映像などを含む広義なものを指します。

ドキュメントは一般に、ひとりの手で作成されるものではなく、複数の人の意見交換や討議を経て作成されます。単純な作業や複雑な計算はコンピューターに委ねられ、あらゆる分野でさまざまなソリューションが展開されていますが、ドキュメントの作成では一般に人が中心なのです。

ArcSuiteは、「ドキュメント」に着目して「人」と「人」をつなぐ、「ドキュメント指向」のソリューション・パッケージです。ArcSuiteをご利用いただくことによって、さまざまなコンピューターシステムを統合したうえでのドキュメントの共有や管理が可能になります。

お使いの商品構成によって、次の機能が標準で提供されないことがあります。

コラボスペース、ドキュメントレビューオプション、ワークフロー、分類ビュー、関連文書検索サービス、原本性保証オプション、キャプチャリングサービス、統合検索サービス、オンラインバックアップオプション、ドキュメント一括操作ツール、連携フォルダ for DocuWorks、連携オプション for Working Folder

本書の内容は、Microsoft Windows Operating System、およびWebブラウザの基本的な知識や操作方法を習得されているかたを対象として記述しています。

Excel、Microsoft、Windows、およびWindows Serverは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporation及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Xerox、Xeroxロゴ、およびFuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

その他の社名または商品名などは、各社の登録商標または商標です。

Microsoft Corporationの許可を得て画面写真を使用しています。

### ご注意

- ・ 本書の編集、変更、または無断での転載はしないでください。
- ・ 本書に記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ・ 本書に記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OSのバージョンによって異なることがあります。

FUJIFILM、およびFUJIFILM ロゴは、富士フィルム株式会社の登録商標または商標です。

ArcEPS、ArcSuite、DocuWide、およびDocuWorksは、富士フィルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標または商標です。

## 著作権について

本ソフトウェア、およびバックアップのために複製されたソフトウェアに関する著作権等を含む一切の無体財産権は、弊社および弊社への供給者に帰属します。

(c) 2002-2021 FUJIFILM Business Innovation Corp.

## マニュアル体系

ArcSuiteには、次のマニュアルおよびヘルプがあります。

マニュアルは、PDFファイルまたはヘルプの形式で提供しています。

主なマニュアルは、『ポータル画面のヘルプ』から参照できます。『ポータル画面のヘルプ』は、Webブラウザの操作画面にある【ヘルプ】から表示できます。

**補足** お使いの商品構成によっては、提供されない機能の説明がマニュアルに含まれることがあります。

### ■ 管理者ユーザー向け

名称	概要
セットアップガイド	本製品全体のセットアップ方法について説明しています。
システム管理者ガイド	リソース管理サービスの概要、機能、管理操作を行うコマンドについて説明しています。また、本製品の運用に必要な管理作業について説明しています。
ドキュメント管理サービス管理者ガイド	ドキュメント管理サービスの概要、機能、および管理操作を行うコマンドについて説明しています。
ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ	サーバーで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。
ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web版のヘルプ	クライアントPCで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。
オフラインバックアップ・リストア運用ガイド	オフラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。
リソース管理アプリケーションのヘルプ	ユーザー、グループ、ユーザーロールの追加、およびライセンスの編集、検索について説明しています。
ログインサーバー管理アプリケーションのヘルプ	ログインサーバーでの認証モードの設定について説明しています。
メッセージ通知管理アプリケーションのヘルプ	メッセージ通知サーバーの設定、メッセージのプール管理、メッセージテンプレートの設定について説明しています。
ポータル管理アプリケーションのヘルプ	ユーザープロフィールに表示する項目の設定、お知らせの設定について説明しています。
ドキュメントスペース管理アプリケーションのヘルプ	属性テンプレートや表示する属性の設定、表示するボタンの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。
表示アプリケーション管理ツールのヘルプ	表示アプリケーションのテンプレート、システム環境の設定について説明しています。
ログ管理アプリケーションのヘルプ	ログを表示する機能、ログを取得する機能、および保守情報を一括で取得する機能について説明しています。

名称	概要
監視ツールのヘルプ	ArcSuiteのコンポーネントにアクセスしているユーザー、データベースの状態、およびセッションの状態を監視する機能について説明しています。
ドキュメントスペースドキュメント操作URLリファレンスガイド	ドキュメントスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
オンラインバックアップ・リストア運用ガイド	オンラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。
e-文書法対応 概要説明書	e-文書法対応の概要および原本性保証オプションの機能について説明しています。
コラボスペース管理アプリケーションのヘルプ	コラボスペースのメールの設定、ログの設定、およびタスクやメッセージの用語をカスタマイズする設定について説明しています。
ワークフロー管理アプリケーションのヘルプ	ワークフロー定義または起動テンプレートの作成者および公開者の設定、ログの設定、外部コマンドの設定について説明しています。
キャプチャリング管理アプリケーションのヘルプ (本書)	キャプチャリングサービスの監視キューに対する操作について説明しています。
統合検索サービス管理アプリケーションのヘルプ	統合検索サービスのリソースの設定、収集スケジュールの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。
コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド	コラボスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
ワークフロー操作URLリファレンスガイド	ワークフローの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
Webサービスインターフェイスリファレンスガイド	ArcSuiteの機能にSOAPを使用して接続するAPIについて説明しています。
ドキュメント管理サービスSDKリファレンスガイド	ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。
コラボスペースInterface Toolkitリファレンスガイド	コラボスペースのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。
ワークフロー Interface Toolkitリファレンスガイド	ワークフローのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。

## ■ クライアントユーザー向け

名称	概要
ポータル画面のヘルプ	ポータル画面で、お気に入りの編集、ユーザープロフィールを変更する操作について説明しています。 Webブラウザの操作画面にある [ヘルプ] から参照してください。
アドレス帳のヘルプ	アドレス帳で、ユーザー、グループ、ユーザーロール、およびタスクを検索する操作について説明しています。
ドキュメントスペースのヘルプ	ドキュメントスペースで、登録、属性の変更、検索などのドキュメントを管理する機能の操作について説明しています。
表示アプリケーションのヘルプ	表示アプリケーションで、ブラウザーイメージ変換された画像を編集する操作、およびユーザー設定について説明しています。
検索条件式のヘルプ	ドキュメントスペースの詳細検索で、全文検索または属性検索の条件式をXMLで指定するときの記述方法について説明しています。

名称	概要
簡易操作のヘルプ	簡易操作画面でドキュメントを管理する機能の操作、および操作画面の設定方法について説明しています。
コラボスペースのヘルプ	コラボスペースで、タスクの作成、メッセージの登録、および検索などの操作について説明しています。
ワークフローのヘルプ	ワークフローで、ワークフロー定義の作成、公開および起動する操作、作業を実行する操作について説明しています。
ドキュメント一括操作ツール説明書	Microsoft Excelを使って、ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理する操作について説明しています。
デスクトップクライアント セットアップガイド	デスクトップクライアントのセットアップ方法について説明しています。
デスクトップクライアント 操作説明書	デスクトップクライアントで、ドキュメント管理サービスのフォルダーやドキュメントにアクセスする操作方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorks セットアップガイド	連携フォルダ for DocuWorksのセットアップ方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorksの ヘルプ (*1)	DocuWorks Deskで、ArcSuiteに登録されているドキュメントを操作する方法について説明しています。

\* 1: 連携フォルダ for DocuWorks をインストールした DocuWorks Desk のヘルプから参照してください。

## 本書の使い方

本書は、ArcSuiteの基本的な操作について説明しています。

### ■ 本書の構成

本書は、次の章から構成されています。

#### [1 キャプチャリング管理アプリケーションとは](#)

キャプチャリング管理アプリケーションの概要について説明しています。

#### [2 キャプチャリング管理アプリケーションでできること](#)

キャプチャリング管理アプリケーションの使い方について説明しています。

#### [3 キャプチャリングサービスの使用例とパラメーターの一覧](#)

キャプチャリングサービスで指定できるパラメーターの使用例をサンプルとともに説明しています。

### ■ 本書の表記

・ 本書では、次の記号を使用しています。

< > キー	キーボードのキーを表します。 例：<Enter>キーを押します。
[ ]	画面に表示されるメニュー、ボタン、項目を表します。 例：[新規作成] をクリックします。
[ ]	同一マニュアル内の参照箇所を表します。 また、強調する用語やメッセージも表します。 例：「1 概要」 「名前が指定されていません。」と表示されます。

『 』	参照するマニュアルの名前を表します。 例：『システム管理者ガイド』
{ }	ユーザー名やサーバー名など、操作時に変わる値を表します。 例：[{ユーザー名}] をクリックします。
>	メニューやWebページの階層を表します。 例：[システムとセキュリティ] > [管理ツール]
<b>注記</b>	一般的な注意事項を表します。
<b>補足</b>	機能や操作に関する補足説明を表します。
<b>参照</b>	参照する事項があることを表します。
<u>          </u>	参照先タイトルやページへのリンクがあることを表します。 例： <a href="#">_ [1 概要] (P.6)</a>

- ・ Microsoft Windows Operating System を「Windows」と表記しています。
- ・ パーソナルコンピュータを「PC」と表記しています。
- ・ お使いの環境によって、マニュアルに記載の画面と実際の画面が異なることがあります。
- ・ 特に表記がない場合の製品のバージョン番号は「4.0」です。

# 目次

1	キャプチャリング管理アプリケーションとは	
1.1	キャプチャリング管理アプリケーションとは	10
1.1.1	キャプチャリングサービスとは	10
1.1.2	監視キューの概要	10
2	キャプチャリング管理アプリケーションでできること	
2.1	管理アプリケーションを起動する	13
2.1.1	管理アプリケーションを起動する手順	13
2.2	監視キューの一覧を表示する	14
2.2.1	【監視キュー一覧】ページの構成	14
2.2.2	監視キューの一覧を表示する手順	15
2.3	監視キューを作成する	16
2.3.1	【監視キュー作成】ページの構成	17
2.3.2	監視キューを作成する手順	20
2.4	監視キューを開始する	23
2.4.1	監視キューを開始する手順	23
2.5	監視キューを停止する	24
2.5.1	監視キューを停止する手順	24
2.6	監視キューを削除する	25
2.6.1	監視キューを削除する手順	25
2.7	監視キューを編集する	26
2.7.1	【監視キュー編集】ページの構成	26
2.7.2	監視キューを編集する手順	28
2.8	監視キューをリセットする	30
2.8.1	【監視キューリセット】ページの構成	30
2.8.2	監視キューをリセットする手順	31
2.9	監視キューの履歴を表示する	32
2.9.1	【履歴リスト】ページの構成	32
2.9.2	【履歴表示】ページの構成	32
2.9.3	監視キューの履歴を表示する手順	33
2.10	監視キューのエラー情報を表示する	34
2.10.1	【エラー情報】ページの構成	34
2.10.2	監視キューのエラー情報を表示する手順	34
2.11	管理アプリケーションを終了する	35
2.11.1	管理アプリケーションを終了する手順	35
3	キャプチャリングサービスの使用例とパラメーターの一覧	
3.1	キャプチャリングサービスの使用例	37
3.1.1	変換パラメーターの例	37
3.1.2	登録パラメーターの例	39
3.1.3	属性パラメーターの例	43
3.1.4	印刷パラメーターの例	44
3.2	変換パラメーター一覧	45
	Pos：合成位置の基点	46
	offx, offy：合成位置の基点からの水平方向、および垂直方向の位置（オフセット）	47

---

3.3	登録パラメーター一覧 .....	48
3.4	印刷パラメーター一覧 .....	54

# 1 キャプチャリング管理アプリケーションとは

キャプチャリング管理アプリケーションの概要について説明します。

## 1.1 キャプチャリング管理アプリケーションとは

---

キャプチャリング管理アプリケーションは、主にファイルのフォーマット変換や転送、登録を行うための管理アプリケーションです。

主に次の機能を提供します。

- ・キャプチャリングサービスの管理
- ・監視キューの作成、編集

### 1.1.1 キャプチャリングサービスとは

---

キャプチャリングサービスは、ArcSuiteとほかのシステムを簡易に連携する手段を提供します。

キャプチャリングサービスの監視キューフォルダーに転送されたファイル（画像や文書など）を、設定に応じてファイルフォーマット変換し、ArcSuiteのドキュメント管理サービスに対して処理を依頼します。

キャプチャリングサービスの変換／登録／印刷では、次の機能を使用します。

- ・変換：ファイルフォーマット変換サービス
- ・登録：ArcSuite Web Application Service
- ・印刷：ArcEPS® SDK

キャプチャリングサービスには、次に示す機能があります。

- ・画像入力機能
- ・画像変換機能
- ・登録機能
- ・印刷要求機能

### 1.1.2 監視キューの概要

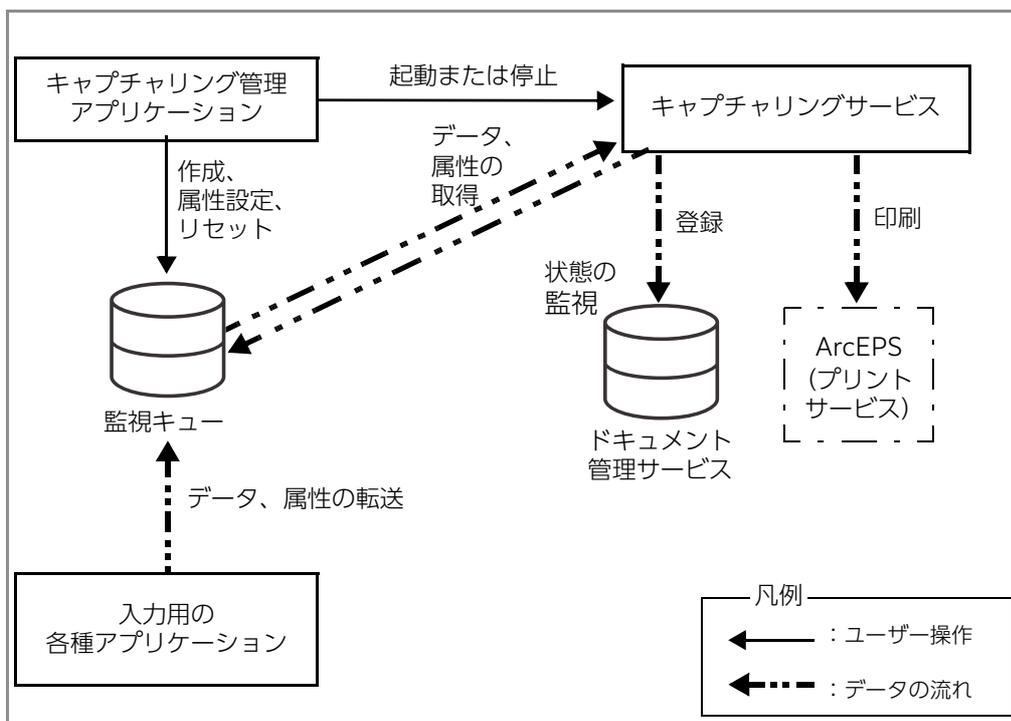
---

キャプチャリングサービスでは、あらかじめ作成および設定しておいた「監視キュー」というフォルダーを利用して、ほかのシステムからのドキュメント／画像データを取得し、ArcSuiteへ転送する機能を提供します。「監視キュー」は、キャプチャリング管理アプリケーションで作成および設定します。

キャプチャリングサービスでは、複数の監視キューを監視できます。監視キューに転送されたドキュメント／画像データは、キャプチャリングサービスによって確認されたときにキャプチャリングサービスの処理用フォルダー内に移動されます。その後、画像変換処理、ドキュメント管理サービス（ArcSuiteのデータベース）への一括登録が行われます。

処理用フォルダー内からドキュメント／画像データが消去されるタイミングは、キャプチャリングサービスがすべての処理を正しく終了したときになります。

監視キューからドキュメント／画像データの取得を中止する場合は、管理アプリケーションで、監視キューでの処理を停止する操作を行います。



図：監視キューとデータの流れ

キャプチャリング管理アプリケーションでは監視キューの作成または編集の場合、次の各種情報を記録します。

- ・登録パラメーター
- ・変換パラメーター（ファイルフォーマット変換サービスの画像変換パラメーター）
- ・属性パラメーター
- ・印刷パラメーター（ArcEPS SDKの印刷設定パラメーター）

## 2 キャプチャリング管理アプリケーション でできること

キャプチャリング管理アプリケーションの操作方法について説明します。

キャプチャリング管理アプリケーションは、次の機能を提供します。

- キャプチャリング管理アプリケーションの起動
- 監視キューの一覧表示
- 監視キューの作成
- 監視キューの編集
- 監視キューの削除
- 監視キューの開始
- 監視キューの停止
- 監視キューのリセット
- 監視キューの履歴の表示
- 監視キューのエラー情報の表示

## 2.1 管理アプリケーションを起動する

---

キャプチャリング管理アプリケーションは、キャプチャリングサービスの管理者が起動できます。  
キャプチャリング管理アプリケーションの起動方法を説明します。

### 2.1.1 管理アプリケーションを起動する手順

---

**1.** 次のように操作します。

◆ **Windows 8.1 の場合**

- (1) Windows のスタート画面で、左下の [↓] ボタンをクリックします。
- (2) [FUJIFILM] カテゴリの [ArcSuite キャプチャリングサービス管理ツール] をクリックします。

◆ **Windows Server 2016、Windows Server 2019、または Windows 10 の場合**

- (1) Windows の [スタート] メニューから、[FUJIFILM] > [ArcSuite キャプチャリングサービス管理ツール] を選択します。

**2.** 管理者権限を持つユーザーの [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。

**3.** [ログイン] をクリックします。

ログインに成功すると、キャプチャリング管理アプリケーションが起動して、[キャプチャリング管理] 画面が表示されます。

なお、ログインに 3 回失敗するとエラー画面を表示し、ログインを終了します。

[キャプチャリング管理] 画面は、キャプチャリング管理アプリケーションのトップ画面になります。

## 2.2 監視キューの一覧を表示する

作成済みの監視キューの一覧を表示できます。作成済みの監視キューの一覧表示の画面で操作対象の監視キューを選択して、各種操作を実行する手順を説明します。

### 2.2.1 [監視キュー一覧] ページの構成

[監視キュー一覧] ページでは、既存の監視キューの一覧を表示できます。

[監視キュー一覧] ページの各項目について説明します。

項目	説明
[更新]	クリックすると、監視キューの一覧表示エリアの情報が更新されます。
[作成]	クリックすると、[監視キュー作成] ページが表示されます。 <b>参照</b> [監視キュー作成] ページの詳細については、 <a href="#">[2.3.1 「監視キュー作成」ページの構成 (P.17)</a> を参照してください。
[編集]	クリックすると、[監視キュー編集] ページが表示されます。 <b>参照</b> [監視キュー編集] ページの詳細については、 <a href="#">[2.7.1 「監視キュー編集」ページの構成 (P.26)</a> を参照してください。
[削除]	クリックすると、確認のためのダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックすると、監視キューの一覧表示エリアでラジオボタンによって選択された監視キューが削除されます。
[開始]	クリックすると、確認のためのダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックすると、監視キューの処理が開始されます。
[停止]	クリックすると、確認のためのダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックすると、現在処理実行中の (処理が開始されている) 監視キューが停止状態になります。
[リセット]	クリックすると、[監視キューリセット] ページが表示されます。 <b>参照</b> [監視キューリセット] ページについては、 <a href="#">[2.8.1 「監視キューリセット」ページの構成 (P.30)</a> を参照してください。
[履歴表示]	クリックすると、[履歴リスト] ページが表示されます。 <b>参照</b> [履歴リスト] ページについては、 <a href="#">[2.9.2 「履歴表示」ページの構成 (P.32)</a> を参照してください。
[エラー表示]	クリックすると、[エラー情報] ページが表示されます。 <b>参照</b> [エラー情報] ページについては、 <a href="#">[2.10.1 「エラー情報」ページの構成 (P.34)</a> を参照してください。
監視キューの一覧表示エリア	作成済みの監視キューの一覧が表示されます。 <b>[選択] ラジオボタン</b> クリックすると、[選択] ラジオボタンで選択された監視キューが、編集やリセットなどの各種操作の対象になります。

## 2.2.2 監視キューの一覧を表示する手順

---

1. 次のように操作します。

◆ **Windows 8.1 の場合**

(1) Windows のスタート画面で、左下の [↓] ボタンをクリックします。

(2) [FUJIFILM] カテゴリの [ArcSuite キャプチャリングサービス管理ツール] をクリックします。

◆ **Windows Server 2016、Windows Server 2019、または Windows 10 の場合**

(1) Windows の [スタート] メニューから、[FUJIFILM] > [ArcSuite キャプチャリングサービス管理ツール] を選択します。

2. 管理者権限を持つユーザーの [ユーザー名] と [パスワード] を入力します。

3. [ログイン] をクリックします。

ログインに成功すると、キャプチャリング管理アプリケーションが起動して、[キャプチャリング管理] 画面が表示されます。

[キャプチャリング管理] 画面には、既存の監視キューの一覧が、[監視キュー一覧] ページに表示されます。

## 2.3 監視キューを作成する

---

キャプチャリングサービスの管理者は、最大30個の監視キューを作成できます。

監視キューを作成すると、{キャプチャリングサービスのユーザーホームフォルダー}（キャプチャリングサービスのインストール時に設定したフォルダー）内にある次のフォルダーの下位階層に、監視キューに対応した作業フォルダーが作成されます。

- ・ param フォルダー
- ・ spool フォルダー

監視キューを作成する手順を説明します。

**注記** 管理ツールは、文字を UTF-8 で表示するため、パスのセパレーターとして入力する「¥（半角円記号）」を「\（半角バックスラッシュ）」として表示します。

**補足** 作業フォルダーは、デフォルトのインストール時には、C:¥ArcSuite¥Client¥Capture¥data¥Capture の下に作成されます。

**参照** キャプチャリングサービスの登録と変換パラメーターについては、[\[3 キャプチャリングサービスの使用例とパラメーターの一覧\] \(P.36\)](#) を参照してください。

## 2.3.1 [監視キュー作成] ページの構成

[監視キュー作成] ページでは、監視キューを新規に作成できます。

[監視キュー一覧] ページで、[作成] をクリックすると、[監視キュー作成] ページが表示されます。

[監視キュー作成] ページの各項目について説明します。

**補足** 3つのパラメーターについては、監視キュー作成時に省略できます。省略した場合には、監視キュー作成後に、[監視キュー編集] ページで設定できます。

項目	説明
[作成]	クリックすると、設定内容が登録されます。
[クリア]	クリックすると、入力した設定内容をすべてクリアします。
[キャンセル]	クリックすると、入力した設定内容を破棄して、[監視キュー一覧] ページに戻ります。
[監視フォルダ (必須)]	<p>監視キュー (フォルダー) を作成する絶対パスを入力します。</p> <p><b>注記</b> 入力には、次の制限があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入力できる文字数は、全角半角に関わらず128文字までです。</li> <li>Windowsのファイル名として使用できない文字は、ここでの入力でも使用できません。 例) [/] [:] [*] [?] ["] [&lt;] [&gt;] [ ]</li> <li>スペース+セパレーター → 「¥」 は使用できません。 例) [C:¥Queue¥Queue1] は正しいですが、「C:¥Queue ¥Queue1」はエラーになります。</li> <li>入力できるのは、ドライブの指定文字、セパレーター、ファイル名を含め、128文字以内です。 例) C:¥Queue¥Queue001</li> <li>フォルダーパス文字列の端にスペースを付けた場合、そのスペースは無視します。 例) [C:¥Queue¥Queue009] → [C:¥Queue¥Queue009] 例) [ C:¥Queue¥Queue010] → [C:¥Queue¥Queue010]</li> <li>「, (カンマ)」は使用できません。使用すると、監視キューが異常状態になります。</li> <li>管理ツールは、文字をUTF-8で表示するため、パスのセパレーターとして入力する「¥ (半角円記号)」を「\ (半角バックスラッシュ)」として表示します。</li> </ul>
[ポーリング時間 (1~180秒) (必須)]	<p>監視キューでのファイル転送でデータ転送時の、データ有効待ち時間を入力します。</p> <p>入力できるのは、1~180秒です。</p> <p><b>注記</b> 入力できる文字数は、半角数字3文字までです。ただし、開始文字が0は受け付けられません。</p> <p><b>補足</b> 監視キューへのデータ転送は、FTPプロトコルなどを使って行われます。FTPでは、データ転送が終了したことを知る事ができません。そのため、キャプチャリングサービスでは、[ポーリング時間] として設定した一定時間内 (転送待ち時間内) にデータが転送されていないことを確認することによって、データが確定します。</p>
[登録ユーザー名]	<p>監視キューの登録ユーザーのログイン名を指定します。</p> <p><b>注記</b> 指定できる文字数は、半角文字で256文字までです。</p>
[パスワード]	<p>監視キューの登録ユーザーのパスワードを入力します。</p> <p><b>注記</b> 入力できる文字数は、半角文字で64文字までです。</p>

項目	説明
[パスワード確認]	監視キューの登録ユーザーのパスワードとして [パスワード] を、再度入力します。 <b>注記</b> 入力できる文字数は、半角文字で64文字までです。
[印刷ユーザー名]	監視キューの印刷ユーザーのログイン名を指定します。 <b>注記</b> 指定できる文字数は、半角文字で256文字までです。
[パスワード]	監視キューの印刷ユーザーのパスワードを入力します。 <b>注記</b> 入力できる文字数は、半角文字で64文字までです。
[パスワード確認]	監視キューの印刷ユーザーのパスワードとして [パスワード] を、再度入力します。 <b>注記</b> 入力できる文字数は、半角文字で64文字までです。
[登録パラメータ] エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [パラメータ名] プルダウンメニュー ドキュメント管理サービスに登録するときの登録パラメーターを選択します。</li> <li>• [パラメータ値] ドキュメント管理サービスに登録するときの登録パラメーターの設定値を入力します。 <b>注記</b> 入力できる文字数は、全角半角に関わらず128文字までです。</li> <li>• [追加] クリックすると、登録パラメーターと設定値が初期画像登録情報として追加設定されます。</li> <li>• [変更] クリックすると、変更した登録パラメーターと設定値が初期画像登録情報として反映されます。</li> <li>• [削除] クリックすると、登録パラメーターと設定値が初期画像登録情報から削除されます。</li> </ul>

項目	説明
[変換パラメータ] エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[パラメータ名]</b> プルダウンメニュー キャプチャリングサービスで画像変換するときの画像変換パラメーターを選択します。</li> <li>• <b>[パラメータ値]</b> キャプチャリングサービスで画像変換するときの画像変換パラメーターの設定値を入力します。 <b>注記</b> 入力できる文字数は、全角半角に関わらず128文字までです。</li> <li>• <b>[追加]</b> クリックすると、画像変換パラメーターと設定値が初期画像変換情報として追加設定されます。 <b>補足</b> [パラメータ名] と [パラメータ値] を設定しないで [追加] をクリックした場合は、設定を促すメッセージが表示されます。</li> <li>• <b>[変更]</b> クリックすると、変更した画像変換パラメーターと設定値が初期画像変換情報として反映されます。</li> <li>• <b>[削除]</b> クリックすると、画像変換パラメーターと設定値が初期画像変換情報から削除されます。</li> </ul>
[属性パラメータ] エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[パラメータ名]</b> プルダウンメニュー ドキュメント管理サービス登録するときの属性情報パラメーターを選択します。</li> <li>• <b>[パラメータ値]</b> ドキュメント管理サービスに登録するときの属性情報パラメーターの設定値を入力します。 <b>注記</b> 入力できる文字数は、半角文字で128文字までです。</li> <li>• <b>[追加]</b> クリックすると、属性情報パラメーターと設定値が初期画像属性情報として追加設定されます。 <b>補足</b> [パラメータ名] と [パラメータ値] を設定しないで [追加] をクリックした場合は、設定を促すメッセージが表示されます。</li> <li>• <b>[変更]</b> クリックすると、変更した属性情報パラメーターと設定値が初期画像属性情報として反映されます。</li> <li>• <b>[削除]</b> クリックすると、属性情報パラメーターと設定値が初期画像属性情報から削除されます。</li> </ul>

項目	説明
[印刷パラメータ] エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [パラメータ名] プルダウンメニュー 印刷するときの印刷パラメーターを選択します。</li> <li>• [パラメータ値] 印刷するときの印刷パラメーターの設定値を入力します。 <b>注記</b> 入力できる文字数は、半角文字で128文字までです。</li> <li>• [追加] クリックすると、印刷パラメーターと設定値が初期画像印刷情報として追加設定されます。 <b>補足</b> [パラメータ名] と [パラメータ値] を設定しないで [追加] をクリックした場合は、設定を促すメッセージが表示されます。</li> <li>• [変更] クリックすると、変更した印刷パラメーターと設定値が初期画像印刷情報として反映されます。</li> <li>• [削除] クリックすると、印刷パラメーターと設定値が初期画像印刷情報から削除されます。</li> </ul>

## 2.3.2 監視キューを作成する手順

### 1. [監視キュー一覧] ページで、[作成] をクリックします。

[監視キュー作成] ページが表示されます。

ただし、すでに 30 個の監視キューが存在する場合は、[監視キュー作成] ページが表示されずに、監視キューを作成できないことを示すダイアログボックスが表示されます。

### 2. [監視キュー作成] ページの [監視フォルダ (必須)] に、作成する監視キューの絶対パスを入力します。

入力例

C:\Queue\Queue001

上記の入力例では、C ドライブの Queue フォルダーに監視キュー「Queue001」が作成されます。

**注記** 入力には、次の制限があります。

- 入力できる文字数は、全角半角に関わらず 128 文字までです。
- Windows のファイル名として使用できない文字は、使用できません。  
例) [/] [:] [\*] [?] ["] [<] [>] [|]
- スペース + セパレーター → 「¥」 は使用できません。  
例) 「C:\Queue¥Queue1」 は正しいですが、「C:\Queue ¥Queue1」 はエラーになります。
- 入力できるのは、ドライブの指定文字、セパレーター、ファイル名を含め、128 文字以内です。  
例) C:\Queue¥Queue001
- フォルダーパス文字列の端にスペースを付けた場合、そのスペースは無視します。  
例) 「C:\Queue¥Queue009 」 → 「C:\Queue¥Queue009」  
例) 「 C:\Queue¥Queue010 」 → 「C:\Queue¥Queue010」
- 「, (カンマ)」 は使用できません。使用すると、監視キューが異常状態になります。
- 管理ツールは、文字を UTF-8 で表示するため、パスのセパレーターとして入力する「¥ (半角円記号)」を「\ (半角バックスラッシュ)」として表示します。

**補足** ここで設定するフォルダーは、処理するドキュメント／画像データを格納するためのフォルダーです。

3. [ポーリング時間 (1 ~ 180 秒) (必須)] に、監視キューフォルダーのデータをチェックする間隔を、1 ~ 180 秒の範囲で入力します。

入力できる文字数は、半角数字 3 文字までです。ただし、開始文字が 0 は受け付けられません。

- 補足** ・監視キューへのデータ転送は、FTP プロトコルなどを使って行われます。FTP では、データ転送が終了したことを知ることができません。そのため、キャプチャリングサービスでは、[ポーリング時間] として設定した一定時間内 (転送待ち時間内) にデータが転送されていないことを確認することによって、データが確定します。  
・キャプチャリングサービスを起動した場合、[ポーリング時間] に入力した時間内にデータの転送が行われないと、システムによって処理が開始されます。

4. [登録ユーザー名] にドキュメント管理サービスへの画像の登録を許可するユーザーを入力します。指定できる文字数は、半角文字で 256 文字までです。

5. [パスワード] に、手順 4 で選択したユーザーのパスワードを入力します。

入力できる文字数は、半角文字で 64 文字までです。

6. [パスワード確認] に、ユーザーのパスワードを再度入力します。

7. [印刷ユーザー名] を入力します。

8. [パスワード] に、印刷ユーザーのパスワードを入力します。

9. [パスワード確認] に、印刷ユーザーのパスワードを再度入力します。

10. [登録パラメータ] エリアの [パラメータ名] プルダウンメニューから、登録パラメーターを選択します。

- 補足** パラメーターは、監視キュー作成時に省略できます。省略した場合は、監視キュー作成後に、[監視キュー編集] ページで設定できます。

11. [パラメータ値] に、登録パラメーターの設定値を入力します。

入力できる文字数は、全角半角に関わらず 128 文字までです。

12. [追加] をクリックします。

初期画像登録情報として、登録パラメーターと設定値が入力されます。

13. [変換パラメータ] エリアの [パラメータ名] プルダウンメニューから、画像変換パラメーターを選択します。

- 補足** パラメーターは、監視キュー作成時に省略できます。省略した場合は、監視キュー作成後に、[監視キュー編集] ページで設定できます。

14. [パラメータ値] に、画像変換パラメーターの設定値を入力します。

入力できる文字数は、全角半角に関わらず 128 文字までです。

15. [追加] をクリックします。

初期画像変換情報として、画像変換パラメーターと設定値が入力されます。

16. [属性パラメータ] エリアの [パラメータ名] プルダウンメニューから、属性情報パラメーターを選択します。

- 補足** パラメーターは、監視キュー作成時に省略できます。省略した場合は、監視キュー作成後に、[監視キュー編集] ページで設定できます。

17. [パラメータ値] に、属性情報パラメーターの設定値を入力します。

入力できる文字数は、全角半角に関わらず 128 文字までです。

18. [追加] をクリックします。

初期画像属性情報として、属性情報パラメーターと設定値が入力されます。

**19.** [印刷パラメータ] エリアの [パラメータ名] プルダウンメニューから、印刷パラメーターを選択します。

**20.** [パラメータ値] に、印刷パラメーターの設定値を入力します。  
入力できる文字数は、半角文字で 128 文字までです。

**21.** [追加] をクリックします。  
初期画像印刷情報として、印刷パラメーターと設定値が入力されます。

**22.** [作成] をクリックします。  
監視キューが作成され、初期画像情報が監視キューに設定されます。  
作成に成功すると、[監視キュー一覧] ページに戻り、何番のキューを作成したのかを示すダイアログボックスが表示されます。  
作成に失敗すると、エラー情報が表示されます。表示内容を確認してから、[戻る] をクリックしてください。[監視キュー一覧] ページに戻ります。

**注記** 監視キューを作成するには、[監視フォルダ]、[ポーリング時間]、[登録ユーザー名]、[パスワード]、および [パスワード確認] を必ず入力します。

**補足**

- ・印刷設定が可能な場合は、[印刷パラメータ] が表示されます。
- ・[印刷ユーザー名]、[登録パラメータ]、[変換パラメータ]、[属性パラメータ]、[印刷パラメータ] は、キュー作成時の必須の入力項目ではありません。[キュー編集] ページであとから入力できます。

## 2.4 監視キューを開始する

---

新規に作成した監視キューや、処理停止状態の監視キューでの処理を開始する手順を説明します。

### 2.4.1 監視キューを開始する手順

---

1. [キャプチャリング管理] 画面の [監視キュー一覧] ページに表示されている監視キューの一覧で、処理を開始する監視キューのラジオボタンを選択します。
2. [開始] をクリックします。  
確認のためのダイアログボックスが表示されます。  
次の場合、警告メッセージが表示されます。
  - ・ 異常状態の監視キューを選択した場合
  - ・ ほかのユーザーが処理中である場合
3. [OK] をクリックします。  
監視キューでの処理が開始されます。処理開始に成功すると、[監視キュー一覧] ページに戻ります。  
処理開始に失敗すると、エラー情報が表示されます。表示内容を確認してから、[戻る] をクリックしてください。[監視キュー一覧] ページに戻ります。

**補足** 開始状態になるまで、ほかの操作はできません。

## 2.5 監視キューを停止する

---

処理が開始されている（稼働中の）監視キューを、停止状態にする手順を説明します。

### 2.5.1 監視キューを停止する手順

---

1. [キャプチャリング管理] 画面の [監視キュー一覧] ページに表示されているキューの一覧で、処理を停止する監視キューのラジオボタンを選択します。
2. [停止] をクリックします。  
確認のためのダイアログボックスが表示されます。  
次の場合、警告メッセージが表示されます。
  - ・ 異常状態の監視キューを選択した場合
  - ・ ほかのユーザーが処理中である場合
3. [OK] をクリックします。  
監視キューでの処理が停止されます。処理停止に成功すると、[監視キュー一覧] ページに戻ります。  
処理停止に失敗すると、エラー情報が表示されます。表示内容を確認してから、[戻る] をクリックしてください。[監視キュー一覧] ページに戻ります。

**補足** 停止状態になるまで、ほかの操作はできません。

## 2.6 監視キューを削除する

既存の監視キューを削除する手順を説明します。

### 2.6.1 監視キューを削除する手順

1. 次のどちらかの操作を行います。

◆ **削除対象の監視キューが監視状態（稼働中）の場合**

(1) 監視キューを停止させます。

**参照** 監視キューを停止させる操作の詳細については、[\[2.5 監視キューを停止する\] \(P.24\)](#) を参照してください。

(2) 手順 [2](#) へ進みます。

◆ **削除対象の監視キューが停止状態または異常状態の場合**

(1) 手順 [2](#) へ進みます。

2. [キャプチャリング管理] 画面の [監視キュー一覧] ページに表示されている監視キューの一覧で、削除する監視キューのラジオボタンを選択します。

3. [削除] をクリックします。

確認のためのダイアログボックスが表示されます。

次の場合、警告メッセージが表示されます。

- ・稼働中の監視キューを選択した場合
- ・異常状態の監視キューを選択した場合
- ・ほかのユーザーが処理中である場合

4. [OK] をクリックします。

監視キューが削除されます。削除に成功すると、[監視キュー一覧] ページに戻ります。

削除に失敗すると、エラー情報が表示されます。表示内容を確認してから、[戻る] をクリックしてください。[監視キュー一覧] ページに戻ります。

## 2.7 監視キューを編集する

既存の監視キューの設定内容を編集する手順を説明します。

**補足** 異常状態の監視キューは編集できません。

### 2.7.1 [監視キュー編集] ページの構成

[監視キュー編集] ページでは、既存の監視キューの設定内容を編集できます。

[監視キュー一覧] ページで、[編集] をクリックすると、[監視キュー編集] ページが表示されます。

[監視キュー編集] ページの各項目について説明します。

項目	説明
[設定]	クリックすると、設定内容が登録されます。
[リセット]	クリックすると、入力した設定内容をすべてクリアします。
[キャンセル]	クリックすると、入力した設定内容を破棄して、[監視キュー一覧] ページに戻ります。
[監視フォルダ (必須)]	監視キュー (フォルダ) を作成する絶対パスを入力します。 <b>注記</b> 入力には、次の制限があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>入力できる文字数は、全角半角に関わらず128文字までです。</li> <li>Windowsのファイル名として使用できない文字は、ここでの入力でも使用できません。 例) 「¥」 「/」 「:」 「*」 「?」 「"」 「&lt;」 「&gt;」 「 」</li> <li>スペース+セパレーター → 「¥」 は使用できません。 例) 「C:¥Queue¥Queue1」 は正しいですが、「C:¥Queue ¥Queue1」 はエラーになります。</li> <li>入力できるのは、ドライブの指定文字、セパレーター、ファイル名を含め、128文字以内です。 例) C:¥Queue¥Queue001</li> <li>フォルダパス文字列の端にスペースを付けた場合、そのスペースは無視します。 例) 「C:¥Queue¥Queue009」 → 「C:¥Queue¥Queue009」 例) 「C:¥Queue¥Queue010」 → 「C:¥Queue¥Queue010」</li> <li>「, (カンマ)」 は使用できません。使用すると、監視キューが異常状態になります。</li> <li>管理ツールは、文字をUTF-8で表示するため、パスのセパレーターとして入力する 「¥ (半角円記号)」 を 「\ (半角バックスラッシュ)」 として表示します。</li> </ul>
[ポーリング時間 (1~180秒) (必須)]	監視キューでのファイル転送でデータ転送時の、データ有効待ち時間を入力します。 入力できるのは、1~180秒です。 <b>注記</b> 入力できる文字数は、半角数字3文字までです。ただし、開始文字が0は受け付けられません。 <b>補足</b> 監視キューへのデータ転送は、FTPプロトコルなどを使って行われます。FTPでは、データ転送が終了したことを知る事ができません。そのため、キャプチャリングサービスでは、[ポーリング時間] として設定した一定時間内 (転送待ち時間内) にデータが転送されていないことを確認することによって、データが確定します。
[登録ユーザー名]	監視キューの登録ユーザーのログイン名を指定します。 <b>注記</b> 指定できる文字数は、半角文字で256文字までです。

項目	説明
[パスワード]	監視キューの登録ユーザーのパスワードを入力します。 <b>注記</b> 入力できる文字数は、半角文字で64文字までです。
[パスワード確認]	監視キューの登録ユーザーのパスワードとして [パスワード] を、再度入力します。 <b>注記</b> 入力できる文字数は、半角文字で64文字までです。
[登録パラメータ] エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[パラメータ名]</b> プルダウンメニュー ドキュメント管理サービスに登録するときの登録パラメーターを選択します。</li> <li>• <b>[パラメータ値]</b> ドキュメント管理サービスに登録するときの登録パラメーターの設定値を入力します。 <b>注記</b> 入力できる文字数は、全角半角に関わらず128文字までです。</li> <li>• <b>[追加]</b> クリックすると、登録パラメーターと設定値が初期画像登録情報として追加設定されます。</li> <li>• <b>[変更]</b> クリックすると、変更した登録パラメーターと設定値が初期画像登録情報として反映されます。</li> <li>• <b>[削除]</b> クリックすると、登録パラメーターと設定値が初期画像登録情報から削除されます。</li> </ul>
[変換パラメータ] エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[パラメータ名]</b> プルダウンメニュー キャプチャリングサービスで画像変換するときの画像変換パラメーターを選択します。</li> <li>• <b>[パラメータ値]</b> キャプチャリングサービスで画像変換するときの画像変換パラメーターの設定値を入力します。 <b>注記</b> 入力できる文字数は、全角半角に関わらず128文字までです。</li> <li>• <b>[追加]</b> クリックすると、画像変換パラメーターと設定値が初期画像変換情報として追加設定されます。 <b>補足</b> [パラメータ名] と [パラメータ値] を設定しないで [追加] をクリックした場合は、設定を促すメッセージが表示されます。</li> <li>• <b>[変更]</b> クリックすると、変更した画像変換パラメーターと設定値が初期画像変換情報として反映されます。</li> <li>• <b>[削除]</b> クリックすると、画像変換パラメーターと設定値が初期画像変換情報から削除されます。</li> </ul>

項目	説明
[属性パラメータ] エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [パラメータ名] プルダウンメニュー ドキュメント管理サービスに登録するときの属性情報パラメーターを選択します。</li> <li>• [パラメータ値] ドキュメント管理サービスに登録するときの属性情報パラメーターの設定値を入力します。 <b>注記</b> 入力できる文字数は、半角文字で128文字までです。</li> <li>• [追加] クリックすると、属性情報パラメーターと設定値が初期画像属性情報として追加設定されます。 <b>補足</b> [パラメータ名] と [パラメータ値] を設定しないで [追加] をクリックした場合は、設定を促すメッセージが表示されます。</li> <li>• [変更] クリックすると、変更した属性情報パラメーターと設定値が初期画像属性情報として反映されます。</li> <li>• [削除] クリックすると、属性情報パラメーターと設定値が初期画像属性情報から削除されます。</li> </ul>

## 2.7.2 監視キューを編集する手順

**補足** 異常状態の監視キューは編集できません。

### 1. 次のどちらかの操作を行います。

#### ◆ 編集対象の監視キューが監視状態（稼働中）の場合

##### (1) 監視キューを停止します。

**参照** 監視キューを停止する操作の詳細については、[\[2.5 監視キューを停止する\] \(P.24\)](#) を参照してください。

##### (2) 手順 2 へ進みます。

#### ◆ 編集対象の監視キューが停止状態の場合

##### (1) 手順 2 へ進みます。

### 2. [キャプチャリング管理] 画面の [監視キュー一覧] ページに表示されている監視キューの一覧で、編集する監視キューのラジオボタンを選択します。

### 3. [編集] をクリックします。

[監視キュー編集] ページが表示されます。  
次の場合、警告メッセージが表示されます。

- ・ 異常状態の監視キューを選択した場合
- ・ ほかのユーザーが処理中である場合

### 4. [監視キュー編集] ページで、必要に応じて設定内容を変更します。

[監視キュー編集] ページでの設定内容は、[監視キュー作成] ページでの設定内容とほぼ同じです。

**参照** [監視キュー作成] ページでの設定内容の詳細については、[\[2.3.1 \[監視キュー作成\] ページの構成\] \(P.17\)](#) を参照してください。

**5.** 設定内容を変更し終わったら、[設定] をクリックします。

編集した設定内容が保存されます。保存処理に成功すると、[監視キュー一覧] ページに戻ります。

保存処理に失敗すると、エラー情報が表示されます。表示内容を確認してから、[戻る] をクリックしてください。[監視キュー一覧] ページに戻ります。

## 2.8 監視キューをリセットする

既存の監視キューをリセットする手順を説明します。

**補足** 異常状態の監視キューはリセットできません。

### 2.8.1 [監視キューリセット] ページの構成

[監視キューリセット] ページでは、既存の監視キューをリセットできます。

[監視キュー一覧] ページで、[リセット] をクリックすると、[監視キューリセット] ページが表示されます。

[監視キューリセット] ページの各項目について説明します。

項目	説明
[キュー ID]	リセット対象の監視キューのIDが表示されます。
[監視フォルダ内のデータを削除する]	監視キュー（フォルダー）に存在する画像ファイル、リストファイル、およびリストファイルの設定ファイルを削除する場合に、チェックボックスにチェックマークを付けます。
[エラー情報を削除する]	エラー発生時に保存されていたすべてのファイルを削除する場合に、チェックボックスにチェックマークを付けます。
[作業フォルダ内のデータを削除する]	作業フォルダー内に存在するすべてのファイルを削除する場合に、チェックボックスにチェックマークを付けます。
[パスワードファイルを削除する]	設定されている登録ユーザーと印刷ユーザーを削除する場合に、チェックボックスにチェックマークを付けます。
[リセット実行]	クリックすると、確認のためのダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックすると、チェックボックスにチェックマークを付けたリセットが実行されます。
[キャンセル]	クリックすると、入力した設定内容を破棄して、[監視キュー一覧] ページに戻ります。

## 2.8.2 監視キューをリセットする手順

1. 次のどちらかの操作を行います。

◆ リセット対象の監視キューが監視状態（稼働中）の場合

(1) リセット対象の監視キューを停止します。

**参照** 監視キューを停止する操作の詳細については、[\[2.5 監視キューを停止する\] \(P.24\)](#) を参照してください。

(2) 手順 2 へ進みます。

◆ リセット対象の監視キューが停止状態の場合

(1) 手順 2 へ進みます。

2. [キャプチャリング管理] 画面の [監視キュー一覧] ページに表示されている監視キューの一覧で、リセットする監視キューのラジオボタンを選択します。

3. [リセット] をクリックします。

[監視キューリセット] ページが表示されます。

次の場合、警告メッセージが表示されます。

- ・ 異常状態の監視キューを選択した場合
- ・ ほかのユーザーが処理中である場合

4. [監視キューリセット] ページで、リセットする項目のチェックボックスにチェックマークを付けます。必要に応じて、各チェックボックスにチェックマークを付けてください。

- ・ [監視フォルダ内のデータを削除する]  
監視キュー（フォルダー）に存在する画像ファイル、リストファイル、およびリストファイルの設定ファイルを削除する場合に、チェックマークを付けます。
- ・ [エラー情報を削除する]  
エラー発生時に保存されていたすべてのファイルを削除する場合に、チェックマークを付けます。
- ・ [作業フォルダ内のデータを削除する]  
作業フォルダー内に存在するすべてのファイルを削除する場合に、チェックマークを付けます。
- ・ [パスワードファイルを削除する]  
設定されている登録ユーザーと印刷ユーザーを削除する場合に、チェックマークを付けます。

5. [リセット実行] をクリックします。

確認のためのダイアログボックスが表示されます。

6. [OK] をクリックします。

監視キューのリセットが実行されます。リセットに成功すると、[監視キュー一覧] ページに戻ります。リセットに失敗すると、エラー情報が表示されます。表示内容を確認してから、[戻る] をクリックしてください。[監視キュー一覧] ページに戻ります。

## 2.9 監視キューの履歴を表示する

既存の監視キューでの処理の履歴が記録されたログファイルを、一覧として表示する手順を説明します。

### 2.9.1 [履歴リスト] ページの構成

[履歴リスト] ページでは、監視キューでの処理の履歴が記録されたログファイルを一覧表示できます。

[監視キュー一覧] ページで、[履歴表示] をクリックすると、[履歴リスト] ページが表示されます。

[履歴リスト] ページの各項目について説明します。

項目	説明
検索条件エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [ログ] プルダウンメニュー 表示対象のログファイルの種類を選択します。</li> <li>・ [日付] の入力フィールド 表示対象ログファイルが出力された年月を入力します。</li> <li>・ [検索] クリックすると、指定したログの種類と日付に該当するログファイルが一覧として表示されます。</li> </ul>
[表示]	<p>クリックすると、[選択] ラジオボタンで選択されたログファイルの内容が、[履歴表示] ページに表示されます。</p> <p><b>参照</b> [履歴表示] ページの詳細については、<a href="#">[2.9.2 [履歴表示] ページの構成] (P.32)</a> を参照してください。</p>
[戻る]	<p>クリックすると、入力した設定内容を破棄して、[監視キュー一覧] ページに戻ります。</p>
履歴の一覧表示エリア	<p>監視キューの履歴（ログファイル）が一覧として表示されます。</p> <p>[選択] ラジオボタン 履歴の詳細（ログファイルの内容）を表示する対象を、ラジオボタンで選択します。</p>

### 2.9.2 [履歴表示] ページの構成

[履歴表示] ページでは、[履歴リスト] ページで選択したログファイルの内容を一覧として表示できます。

[履歴リスト] ページで、[表示] をクリックすると、[履歴表示] ページが表示されます。

[履歴表示] ページの各項目について説明します。

項目	説明
[最新の状態に更新]	<p>表示されているログファイルが再度読み込まれ、最新の表示内容に更新されます。</p>
履歴（ログファイル）の内容の一覧表示エリア	<p>監視キューの履歴（ログファイル）の内容が一覧として表示されます。</p> <p>履歴（ログファイル）の内容の一覧表示エリアには、次の項目が表示されます。</p> <p><b>補足</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アカウントログの表示時とシステムログの表示時では、表示項目が異なります。 [メッセージ] は、システムログの履歴が表示されている場合にだけ表示されます。</li> <li>・ [ファイル名] および [ジョブID] は、アカウントログの履歴が表示されている場合にだけ表示されます。</li> </ul>

### 2.9.3 監視キューの履歴を表示する手順

1. [キャプチャリング管理] 画面の [監視キュー一覧] ページに表示されている監視キューの一覧で、履歴を確認する監視キューのラジオボタンを選択します。
2. [履歴表示] をクリックします。  
手順 1 で選択した監視キューの [履歴リスト] ページが表示されます。
3. 検索条件エリアの [ログ] プルダウンメニューから、履歴表示するログの種類を選択します。[アカウントログ] または [システムログ] のどちらかを選択してください。
4. [日付] の入力フィールドに、表示対象のログが出力された年月を入力します。
5. [検索] をクリックします。  
指定したログの種類と日付に該当するログファイルが一覧として表示されます。
6. 表示された一覧で、履歴の内容を確認するログファイルのラジオボタンを選択します。
7. [表示] をクリックします。  
選択したログファイルの [履歴表示] ページが表示されます。  
**補足** ・アカウントログの表示時とシステムログの表示時では、表示項目が異なります。  
[メッセージ] は、システムログの履歴が表示されている場合にだけ表示されます。  
・[ファイル名] および [ジョブ ID] は、アカウントログの履歴が表示されている場合にだけ表示されます。
8. 履歴を確認したら、[戻る] または [キャンセル] をクリックします。  
[戻る] をクリックすると、[履歴リスト] ページに戻ります。  
[戻る] をクリックすると、[監視キュー一覧] ページに戻ります。

## 2.10 監視キューのエラー情報を表示する

既存の監視キューでの処理で、エラー情報を表示する手順を説明します。

### 2.10.1 [エラー情報] ページの構成

[エラー情報] ページでは、既存の監視キューでのエラー情報を表示できます。

[監視キュー一覧] ページで、[エラー表示] をクリックすると、[エラー情報] ページが表示されます。

[エラー情報] ページの各項目について説明します。

項目	説明
[エラー情報一覧]	<ul style="list-style-type: none"><li>・日時 該当の監視キューでエラーになった、ファイルのエラー発生日時が表示されます。</li><li>・ファイル名 該当の監視キューでエラーになった、ファイルの名前が表示されます。</li></ul>

### 2.10.2 監視キューのエラー情報を表示する手順

1. [キャプチャリング管理] 画面の [監視キュー一覧] ページに表示されている監視キューの一覧で、履歴を確認する監視キューのラジオボタンを選択します。
2. [エラー表示] をクリックします  
手順 1 で選択した監視キューの [エラー情報] ページが表示されます。  
監視キューでエラーになった、ファイルのエラー発生日時とファイル名が表示されます。
3. エラー情報を確認したら、[戻る] をクリックします。  
[監視キュー一覧] ページに戻ります。

## 2.11 管理アプリケーションを終了する

---

管理アプリケーションを終了する手順を説明します。

### 2.11.1 管理アプリケーションを終了する手順

---

1. Web ブラウザーの [x] ボタンをクリックします。  
管理アプリケーションが終了します。

# 3 キャプチャリングサービスの使用例とパラメーターの一覧

キャプチャリングサービスで指定できるパラメーターの一覧と使用例について説明します。

## 3.1 キャプチャリングサービスの使用例

次のパラメーターの使用例を説明します。

- ・変換パラメーター
- ・登録パラメーター
- ・属性パラメーター
- ・印刷パラメーター

処理パラメーターの指定には、次の2種類があります。

- ・キャプチャリングサービス管理アプリケーションを通じて初期設定として指定
- ・att ファイルを使って指定

attファイルを使用する場合の例を示します。

### 3.1.1 変換パラメーターの例

変換処理を行う場合は、必ずout-formatまたはkeywordを指定します。

out-formatを指定しないで変換設定を行った場合、画像変換定義テーブルは、入力フォーマットと任意の出力フォーマットで検索します。したがって、入力フォーマットが一致する最初のエントリーを変換パターンとして採用します。

#### ■ 例 1：出力フォーマットが TIFF、右 90 度回転する場合

```
...,conv:out-format,conv:rotate,...
...,image/tiff,90,....
```

#### ■ 例 2：マルチページ TIFF 作成

マルチページTIFFを作成するには、リストファイル形式で指定します。ページを追加していく順番は、リストファイルで指定した順番になります。

例として、1page.tif、2page.tif、3page.tifというファイルを順番にマルチページTIFFにする場合を説明します。

表：必要なファイル

ファイル名	説明
append.list	リストファイルです。 マルチページTIFFにするときのページ順番を記述します。 上記の場合は、次のようになります。 append.att 1page.att 2page.att 3page.att
append.att	処理パラメーターを定義します。
1page.tif 2page.tif 3page.tif	マルチページTIFFにするファイルです。
1page.att 2page.att 3page.att	空ファイルを作成します。 属性は、append.attに定義するため、個々のファイルで定義する必要はありません。

表 : 必要なファイル

ファイル名	説明
1page.lock 2page.lock 3page.lock  1page.end 2page.end 3page.end	<p>コンテンツとattファイルを転送するために使用する空のファイルです。</p> <p>データを転送するときには、append.list、append.attの順に転送したあと、次の順番で転送します。</p> <p>1.xpage.lock 2.xpage.att 3.xpage.tif 4.xpage.end</p> <p>xは、1~3のどれかの数字を示します。 リストファイルを使用する場合、*.lockと*.endは必須です。</p>

この場合、append.attの内容は、次のようになります。

```
..., conv:out-format, conv:append, ...
..., image/tiff, true, ....
```

### ■ 例 3 : 画像合成 (画像の貼り付け)

画像合成機能には、文字列を画像に合成する機能と、2つの画像を合成して1つの画像にする機能があります。例として、2つの画像を合成して、1つの画像にする機能について説明します。

複数の画像を必要とするため、マルチページTIFFを作成する場合と同じように、リストファイル形式で指定します。このとき、リストの順番は、最初に貼り付ける画像、次に貼り付けられる画像の順になります。スタンプ画像 (stamp.tif) を図面画像 (drawing.tif) に貼り付ける例で説明します。

表 : 必要なファイル

ファイル名	説明
merge.list	<p>リストファイルです。</p> <p>貼り付ける画像ファイル、貼り付けられる画像ファイルの順に記述します。</p> <p>上記の場合は、次のようになります。</p> <p>merge.att stamp.att drawing.att</p>
merge.att	処理パラメーターを定義します。
stamp.tif drawing.tif	合成するファイルです。
stamp.att drawing.att	空ファイルを作成します。 マルチページTIFFの場合と同様に、属性はmerge.attに定義するため、個々のファイルで定義する必要はありません。
stamp.lock drawing.lock  stamp.end drawing.end	<p>コンテンツとattファイルを転送するために使用する空のファイルです。</p> <p>データを転送するときには、merge.list、merge.attの順に転送したあと、次の順番で転送します。</p> <p>1.stamp.lock 2.stamp.att 3.stamp.tif 4.stamp.end</p> <p>次に、drawing.*を上記の順に転送します。 リストファイルを使用する場合、*.lockと*.endは必須です。</p>

合成するパラメーターを次のように設定します。

- ・ オフセット位置 : topleft
- ・ x 方向のオフセット : 0
- ・ y 方向のオフセット : 0
- ・ 合成モード : multiply1

上記の設定の場合、merge.attの内容は、次のようになります。

```
..., conv:out-format,conv:merge,conv:mergemode...
... ,image/tiff,topleft 0 0,multiply,...
```

### 3.1.2 登録パラメーターの例

次の例について説明します。

- ・ [登録先の指定方法の例](#)
- ・ [テンプレート名の指定の例](#)
- ・ [フォルダー登録の例](#)
- ・ [リビジョンアップ登録の例](#)
- ・ [上書き登録の例](#)
- ・ [マージ登録の例](#)
- ・ [リファレンス同時生成登録の例](#)
- ・ [locationObjectIdを使用した登録の例](#)

#### ■ 登録先の指定方法の例

次の場合についての登録先の指定の方法を説明します。

- ・ ダイレクト形式で登録先を指定
- ・ キャビネット起点の検索条件で登録先を指定
- ・ ドロワー起点の検索条件で登録先を指定
- ・ ドロワー／フォルダー起点の検索条件で登録先を指定

#### ◆ ダイレクト形式での登録先の指定方法

ダイレクト形式では、次のパラメーターを指定します。

- ・ locationServiceId
- ・ locationCabinetId
- ・ locationDrepId

登録先の上記パラメーターは、ドキュメントスペースの属性表示などでID情報をあらかじめ調べておく必要があります。

例：ダイレクト形式で登録先を指定する場合

```
..., regist:locationServiceId,regist:locationCabinetId,regist:locationDrepId,...
... ,drep_silver,CAB01,132303445566,...
```

#### ◆ キャビネット起点の検索条件で登録先を指定

キャビネット起点での指定方法では、次のパラメーターを使用します。

- ・ locationServiceId
- ・ locationCabinetId
- ・ locationCondition

locationServiceId、locationCabinetIdは、あらかじめ調べておく必要があります。locationConditionは、検索条件を指定します。

例：名前属性が"folder"のオブジェクトを登録先として指定する場合

```
...,
regist:locationServiceId,regist:locationCabinetId,regist:locationCondition,...
... ,drep_silver,CAB01,system:name "folder",...
```

#### ◆ ドrawer起点の検索条件で登録先を指定

Drawer起点での指定方法では、次のパラメーターを使用します。

- ・ locationServiceId
- ・ locationCabinetId
- ・ locationDrawerName
- ・ locationCondition

locationServiceId、locationCabinetIdは、あらかじめ調べておく必要があります。locationConditionは、検索条件を指定します。

例：name属性が"folder"のオブジェクトを登録先として指定する場合

```
...,
regist:locationServiceId,regist:locationCabinetId,regist:locationDrawerName,regist:locationCondition,...
... ,drep_silver,CAB01,drawer1,system:name "folder",...
```

#### ◆ Drawer／フォルダー起点の検索条件で登録先を指定

Drawer／フォルダー起点での指定方法では、次のパラメーターを使用します。

- ・ locationServiceId
- ・ locationCabinetId
- ・ locationDrepId
- ・ locationCondition

起点となるDrawer／フォルダーのlocationServiceId、locationCabinetId、locationDrepIdは、あらかじめ調べておく必要があります。

locationConditionは、検索条件を指定します。

例：name属性が"folder"のオブジェクトを登録先として指定する場合

```
...,
regist:locationServiceId,regist:locationCabinetId,regist:locationDrepId,regist:locationCondition,...
... ,drep_silver,CAB01, 132303445566,system:name "folder",...
```

## ■ テンプレート名の指定の例

テンプレート名の指定は、システム属性system:templateNameを指定します。

例：テンプレート名に"defaultTemplate"を指定して、ユーザー属性drawingNumber、属性値を"drawing"とする場合

```
..., attr:system:templateName,attr:user:drawingNumber,...
... ,defaultTemplate, drawing",...
```

## ■ フォルダー登録の例

フォルダー登録は、指定したname属性のフォルダーを作成し、その下にオブジェクトを登録します。フォルダー登録を指定する場合は、パラメーター createFolderを指定します。

例：ドローワー "drawer1"の下に、name属性が"folder"を作り、その下にオブジェクトを登録する場合

```
..., regist:entryMode,regist:locationServiceId,regist:locationCabinetId,regist:
locationDrawerName, regist:creatFolder...
... ,entity,drep_silver,CAB01,drawer1,"folder",...
```

## ■ リビジョンアップ登録の例

リビジョンアップ登録をする場合は、entryModeをrevisionUpで指定します。

リビジョンアップ対象のオブジェクトの指定には、次のパラメーターを使用します。

- ・ targetCondition または targetLatestEdition
- ・ locationServiceId
- ・ locationCabinetId

locationServiceId、locationCabinetIdは、あらかじめ調査しておく必要があります。

targetLatestEditionを使用した場合の例を示します。

例：ユーザー属性userstring、属性値"drawing"であるオブジェクトの最新エディションのものをリビジョンアップ対象とする場合

```
...,
regist:entryMode,regist:locationServiceId,regist:locationCabinetId,regist:target
LatestEdition...
... ,revisionUp,drep_silver,CAB01,user:userstring "drawing",...
```

## ■ 上書き登録の例

上書き登録の場合は、entryModeをoverWriteで指定します。上書き対象の指定方法は、リビジョンアップの場合と同じです。

targetConditionを利用した場合の例を示します。

例：ユーザー属性userstringが"drawing1"という検索条件を指定して、上書き登録する場合

```
...,
regist:entryMode,regist:locationServiceId,regist:locationCabinetId,regist:target
Condition,...
... ,overWrite,drep_silver,CAB01,user:userstring "drawing1",...
```

## ■ マージ登録の例

マージ登録の場合は、entryModeをmergeで指定します。マージ対象の指定は、リビジョンアップの場合と同じです。

例：ユーザー属性userstringが"drawing1"という検索条件を指定してマージ登録する場合

```

... ,
regist:entryMode,regist:locationServiceId,regist:locationCabinetId,regist:target
LatestEdition...
... ,merge,drep_silver,CAB01,user:userstring "drawing1",...
    
```

マージ登録で、すでに設定している属性値をnullとする場合は、属性値に¥0を指定します。

例：ユーザー属性userstringが"drawing1"という検索条件を指定して、ユーザー属性drawingNumberをnullにする場合

```

... ,
regist:entryMode,regist:locationServiceId,regist:locationCabinetId,regist:target
LatestEdition.,
attr:user:drawingNumber,...
... ,merge,drep_silver,CAB01,user:userstring "drawing1",¥0,...
    
```

### ■ リファレンス同時生成登録の例

リファレンス同時生成登録を指定する場合は、オブジェクト（実体）の登録先の指定とリファレンスの登録先の指定の両方を行います。

リファレンス先の指定には、次のパラメーターを使用します。

- ・ refLocationServiceId
- ・ refLocationCabinetId
- ・ refLocationDrepld
- ・ refLocationCondition
- ・ refLocationDrawerName

entryModeをentityAndReferenceで指定します。リファレンスにオブジェクトの属性を継承する場合は、refCopyAttrをtrueにし、継承する属性をatomIdで指定します。

リファレンスの登録先の指定方法は、それぞれ登録先指定の方法と同じです。

例：次の指定をして、リファレンス同時生成登録を行う場合

- ・ オブジェクトの登録先として name 属性が "folder" のフォルダー
- ・ リファレンスの登録先として name 属性が "refFolder" のフォルダー
- ・ リファレンスへにコピーする属性は、system:name,user:userstring

```

regist:entryMode,regist:locationServiceId,regist:locationCabinetId,regist:locati
onCondition,regist:refLocationServiceId,regist:refLcocationCabinetId,regist:refL
ocationCondition,regist:atomId,regist:refCopyAttr,...
entityAndReference,drep_silver,CAB01,system:name "folder",drep_silver,CAB01,
system:name "refFolder","system:name,user:userstring",true,...
    
```

## ■ locationObjectID を使用した登録の例

locationObjectIDを使用してファイルを登録するには、ドキュメントスペースからオブジェクトIDを取得する必要があります。

登録までの流れは次のとおりです。

- ・ [\[◆ドキュメントスペースからオブジェクトIDを取得\] \(P.43\)](#)
- ・ [\[◆locationObjectIDを使用した登録\] \(P.43\)](#)

### ◆ ドキュメントスペースからオブジェクト ID を取得

1. ドキュメントスペースを起動します。
2. 適当なドロワーやフォルダーの属性表示を実行します。  
ID に表示された値が、オブジェクト ID になります。

### ◆ locationObjectID を使用した登録

1. キャプチャリングサービス管理アプリケーションを起動します。
2. [監視キュー作成] ページ、および [監視キュー編集] ページを表示します。
3. [登録パラメータ] エリアの [パラメータ名] プルダウンメニューから、[locationObjectID] を選択します。
4. ドキュメントスペースから取得したオブジェクト ID を設定値に入力します。
5. [追加] をクリックします。  
登録パラメーターと設定値が、初期画像登録情報として追加設定されます。
6. 登録ユーザーを入力します。
7. 監視キューを作成します。
8. 監視キューを開始します。
9. キューフォルダーにファイルを転送します。  
対象オブジェクトにファイルが登録されます。

## 3.1.3 属性パラメーターの例

通常の属性指定の場合は、name属性を除き、ユーザー属性の場合はuser:、システム属性の場合はsystem: を付けます。

例：name属性が"drawing"、ユーザー属性であるdrawingNumber属性が"0001"の場合

```
..., attr:name, attr:user:drawingNumber, ...
... , drawing, 0001, ...
```

エディションキー属性の場合は、登録パラメーターのeditionKeyを指定します。

例：エディションキー属性がユーザー属性userstring、属性値が"drawing"、name属性が"drawing1"の場合

```
..., regist:editionKey, attr:name, ...
... , user:userstring "drawing", drawing1...
```

### 3.1.4 印刷パラメーターの例

印刷指定では、server、paperの指定が必須です。

例：

- ・ ArcEPS のプリントサービスの URL が  
"http://server.fujifilm.com/fb/eps/BT8180server"
- ・ 用紙指定を "auto : plain:a4"
- ・ 1 ジョブマルチドキュメント
- ・ 部数を 2
- ・ 次の HPGL ファイルを順番に印刷します。
  - 1.1page.glf
  - 2.2page.glf
  - 3.3page.glf

上記に示すHPGLファイルを印刷する場合、次の表に示すファイルが必要です。

表：必要なファイル

ファイル名	説明
print.list	印刷するページ順番を記述します。 上記の場合は、次のようになります。 print.att 1page.att 2page.att 3page.att
print.att	処理パラメーターを定義します。
1page.glf 2page.glf 3page.glf	印刷するファイルです。
1page.att 2page.att 3page.att	空ファイルを作成します。 属性は、print.attに定義するため、個々のファイルで定義する必要ありません。 印刷は1ジョブマルチドキュメントで行うため、このattファイルに属性を記述しても無視されます。ただし、処理の順番が保証されるため、必要です。
1page.lock 2page.lock 3page.lock 1page.end 2page.end 3page.end	コンテンツとattファイルを転送するため使用する空のファイルです。 データを転送するときには、次の順番で転送します。 1.xpage.lock 2.xpage.att 3.xpage.glf 4.xpage.end  xは、1～3のどれかの数字を示します。

print.attは、次のようになります。

```
..., print:server,print:paper,print:multi,print:count,...
... ,http://server.fujifilm.com/fb/eps/BT8180server,auto:plain:a4,on,2,...
```

## 3.2 変換パラメーター一覧

キャプチャリングサービスで指定できる変換処理パラメーターの一覧は、次のとおりです。

表：変換処理パラメーターの一覧

パラメーター名 ("conv:"は除く)	値	説明
append	true/false	複数ドキュメントを1つにまとめる場合に指定します。 値：true：併合する/false：併合しない
colorallowance	数値	透過色の許容値を指定します。 mergemodeオプションがtransparentの場合だけ有効です。 値：0~255
convErrorIgnore	true/false	変換処理でエラーになった場合に、そのエラーを無視して次の変換処理に移るかどうかを指定します。 エラーを無視した場合、監視キューを停止しません。 値：true：エラーを無視する/false：エラーを無視しない
fontsize	数値（正の整数）	合成する文字列のフォントサイズを指定します。 stringオプションが指定されている場合だけ有効です。 例：20
image	文字列	合成する画像を指定します。 合成する画像のパスを指定することで、静的に合成画像を指定できます。mergeオプションが指定されている場合だけ有効です。 stringオプションと合わせて指定した場合、コンバーターでエラーになります。 また、「処理ファイル-m.拡張子」のファイルを処理ファイルと合わせてキューフォルダーに入れることで、このオプションと同等の機能を付与できます。 上記の場合、動的に合成画像を指定できます。 例：c:%tmp%a.tif
keyword	文字列	view, print, nail, topNail, scrapのどれかを指定することで、そのキーにあった画像に変換します。 値：view, print, nail, topNail, scrap
merge	オフセット位置 x y	合成する位置を指定します。オフセット位置からx, yミリの位置にマージします。 オフセット位置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ topleft：左上部</li> <li>・ topcenter：中央上部</li> <li>・ topright：右上部</li> <li>・ middleleft：中央左部</li> <li>・ center：中央部</li> <li>・ middleright：中央右部</li> <li>・ bottomleft：左下部</li> <li>・ bottomcenter：中央下部</li> <li>・ bottomright：右下部</li> </ul> 例：topleft 10 20

表 : 変換処理パラメーターの一覧

パラメーター名 ("conv:"は除く)	値	説明
mergemode	文字列	マージモードを指定します。 mergeオプションが指定されている場合だけ有効です。 値： ・ opaque : 上書き ・ multiply : 乗算 ・ transparent : 透過
out-format	文字列	出力ファイルのコンテンツタイプを指定します。 例 : image/tiff
resolution	数値	TIFFファイルまたはPDFファイルに変換するときの出力解像度を指定します。 XDWへの変換には適用しません。 値 : $1 < \text{resolution} < 9,999$
rotate	数値	回転角度を指定します。 回転方向は、右をx軸正方向として反時計回りで。 値 : -270, -180, -90, 0, 90 180, 270 <b>補足</b> 入力したファイルのコンテンツタイプと「out-format」で指定した出力ファイルのコンテンツタイプの組み合わせによっては、回転できなかったり、時計回りに90度の回転になったりすることがあります。
rotatemode	true/false	サイズ別に回転するかを指定します。 値 : true : する / false : しない
scale	数値	x, y方向のスケール値を正の整数、または正の小数で指定します。 例： xとy方向のスケールを2倍にする場合、2 xとy方向のスケールを半分にする場合、0.5
string	文字列	合成する文字列を指定します。 mergeオプションが指定されている場合だけ有効です。 また、文字列中に「%DATE%」を含めると、その部分に変換時の時間に置き換えます。 フォーマットは「YYYY-MM-DD hh:mm:ss」です。なお、imageオプションと合わせて指定した場合、コンバーターでエラーになります。 例 : abc abc %DATE% def
transcolor	0xRRGGBB (16進数)	透過色を指定します。 例 : 黄色を透過色とする場合 : 0xFFFF00

次にオフセットの詳細について説明します。

## Pos : 合成位置の基点

指定できる値は次のとおりです。

- ・ topleft : 上部左点
- ・ topcenter : 上部中点
- ・ topright : 上部右点

- ・ middleleft : 中央部左点
- ・ center : 中央点
- ・ middleright : 中央部右点
- ・ bottomleft : 下部左点
- ・ bottomcenter : 下部中点
- ・ bottomright : 下部右点

## offx, offy : 合成位置の基点からの水平方向、および垂直方向の位置 (オフセット)

指定単位はmm、指定できる値は整数です。

出力フォーマットとしては、ラスターデータまたはDocuWorksフォーマットだけを指定できます。各出力フォーマットに対するオフセット値の指定できる範囲は、次のとおりです。

表 : 各出力フォーマットに対するオフセット値

出力フォーマット	指定できる範囲
ラスターデータ	<p>ピクセル換算で、  <math>-2^{16} \leq \text{offsetx} \leq 2^{16} - 1</math>  <math>-2^{16} \leq \text{offsety} \leq 2^{16} - 1</math>になります。</p> <p>例 : 400dpiの画像の場合  ピクセル換算をすると、  <math>65536 (2^{16}) \div 400 (\text{dpi}) \times 25.4 (\text{mm-inch換算}) = 4161.536</math></p> <p><math>65535 \div 400 \times 25.4 =</math>  となるため、指定できる範囲は、  <math>-4161 \leq \text{offsetx} \leq 4161</math>  <math>-4161 \leq \text{offsety} \leq 4161</math>  になります。</p>
application/vnd.fujifilm.fb.docuworks application/vnd.fujifilm.fb.docuworks.binder	$-500 \leq \text{offsetx} \leq 500$ $-500 \leq \text{offsety} \leq 500$

## 3.3 登録パラメーター一覧

キャプチャリングサービスで指定できる登録処理パラメーターの一覧は、次のとおりです。

表：登録処理パラメーターの一覧

パラメーター名 ("regist:"は除く)	型	デフォルト値	説明
atomId	文字列	—	参照先からリファレンスに、コピーする属性を指定します。 複数指定する場合は、";"で区切って記述します。 例：system:nameとuser:userstringを指定する場合 system:name,user:userstring
createFolder	文字列	—	フォルダー登録モードで登録します。 指定した名前で、フォルダーを生成します。 上記の指定を行った場合、オブジェクトの登録先は、フォルダーの直下になります。
createNail	ブール値	false	プライマリーコンテンツをもとにセカンダリーコンテンツのネイル画像を作成し、プライマリーコンテンツとともに登録します。
createPrint	ブール値	false	プライマリーコンテンツをもとにセカンダリーコンテンツのプリント画像を作成し、プライマリーコンテンツとともに登録します。
createScrap	ブール値	false	プライマリーコンテンツをもとにセカンダリーコンテンツのスクラップ画像を作成し、プライマリーコンテンツとともに登録します。
createTopNail	ブール値	false	プライマリーコンテンツをもとにセカンダリーコンテンツのトップネイル画像を作成し、プライマリーコンテンツとともに登録します。
createView	ブール値	false	プライマリーコンテンツをもとにセカンダリーコンテンツのビュー画像を作成し、プライマリーコンテンツとともに登録します。
designatedEditionLabel	アトム	—	指定エディションラベルを指定します。 editionKeyパラメーターを指定した場合だけ有効です。
designatedEditionNumber	整数	—	指定エディション番号を指定します。 editionKeyパラメーターを指定した場合だけ有効です。
editionKey	エディションキー文字列	—	エディションキーを指定します。 登録するオブジェクトをエディション管理下にする場合に、エディションキー属性と値を指定します。
encoding	文字列	—	テキスト形式のファイルを登録するときの文字エンコーディングを指定します。 指定がない場合は、コマンドを実行したJavaVMのデフォルトエンコーディングで処理されます。
entryErrorIgnore	ブール値	true	エラー発生時、処理を続けるかどうかを指定します。 true：処理を続ける false：当該行で処理を中断して、プログラムを終了

表：登録処理パラメーターの一覧

パラメーター名 ("regist:"は除く)	型	デフォルト値	説明
entryMode	文字列	entity	指定できるモードは、次のとおりです。 entity：データ登録モード entityAndReference：リファレンス同時生成登録モード revisionUp：リビジョンアップモード overWrite：上書きモード merge：マージモード 上記以外のモードを指定するとエラーになります。
existenceCheck	文字列	ignore	該当行の処理を行う前に指定条件によるオブジェクトの存在チェックを行い、オブジェクトが存在する場合やしない場合の振る舞いを指定します。 ignore：存在チェックを行わない skip：オブジェクトが存在する場合は該当行の処理をスキップし、存在しない場合は該当行を処理する do：オブジェクトが存在する場合は該当行を処理し、存在しない場合は該当行の処理をスキップする
existenceCheck CabinetId	文字列	—	存在チェック先のcabinetIdを指定します。
existenceCheck Condition	検索文字列	—	存在チェック先の検索条件を指定します。 (検索条件形式の場合に指定)
existenceCheck DepthFromSearchRoot			存在チェック先の検索範囲となる階層数を指定します。 (existenceCheckConditionパラメーターを指定した場合だけ有効)
existenceCheck DrawerName	文字列	—	存在チェック先のドロワー名を指定します。 (ダイレクト形式でドロワーをチェック先にする場合や検索条件形式でドロワーを検索の基点とする場合に指定する)
existenceCheck Drepld	数値	—	存在チェック先のdrepldを指定します。 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件形式での検索起点を指定する場合に指定する)
existenceCheck ObjectId	文字列	—	存在チェック先のObjectIdの文字列表記を指定します。 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件式での検索起点を指定する場合に指定する)
existenceCheck ServiceId	文字列	—	存在チェック先のserviceIdを指定します。

表 : 登録処理パラメーターの一覧

パラメーター名 ("regist:"は除く)	型	デフォルト値	説明
folderAttr	文字列 (属性名 属性値, 属性名 属 性値,...)	—	フォルダーに登録するときに、付加する名前以外のユーザー属性を指定します。 属性名、属性値は、スペースで区切って記述します。複数指定する場合は、「, (カンマ)」で区切って指定します。名前属性は、createFolderで指定します。このパラメーターは、createFolderを指定している場合にだけ有効です。「, (カンマ)」を使用する場合は、必ずダブルクォーテーションで値を括弧します。 例： 属性user:drawingNumber = "0001" 属性user:drawingName = "図面1"を指定する場合 user:drawingNumber□""0001""",user:drawingName □図面1 (□はスペース)
locationCabinetId	文字列	—	データ登録先のcabinetIdを指定します。
locationCondition	検索文字列	—	データ登録先の検索条件を指定します。
locationDepthFromSearchRoot	数値	—	データ登録先の検索範囲となる階層数を指定します。 (locationConditionパラメーターを指定した場合だけ有効)
locationDrawerName	文字列	—	データ登録先のドロワー名を指定します。 (ダイレクト形式でドロワーを登録先にする場合や検索条件形式でドロワーを検索の基点とする場合に指定する)
locationDrepld	数値	—	データ登録先のdrepldを指定します。 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件形式での検索起点を指定する場合に指定する)
locationObjectId	文字列	—	データ登録先のObjectIdの文字列表記を指定します。 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件式での検索起点を指定する場合に指定する)
locationServiceId	文字列	—	データ登録先のserviceIdを指定します。
multipleLocation	文字列	first	データ登録先オブジェクトやリファレンス登録先オブジェクトが複数該当した場合の処理を指定します。 first : 最初に該当したオブジェクトを対象 error : エラー
multipleTarget	文字列	first	リビジョンアップ、上書き、またはマージ対象オブジェクトが複数該当した場合の処理を指定します。 first : 最初に該当したオブジェクトを対象 error : エラー
nextCondition	検索文字列	—	データ登録位置の検索条件を指定します。 (データ登録先オブジェクトを検索起点とする検索条件形式の場合に指定する)

表：登録処理パラメーターの一覧

パラメーター名 ("regist:"は除く)	型	デフォルト値	説明
nextDrepld	数値	－	データ登録位置のdrepldを指定します。 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件形式での検索起点を指定する場合に指定する)
nextObjectId	文字列	－	データ登録位置のObjectIdの文字列表記を指定します。 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件形式での検索起点を指定する場合に指定する)
oldStatus	アトム	－	オブジェクトを登録する前の最新エディションオブジェクトの状態を指定します。 (editionKeyパラメーターやentryModeパラメーターにreviseを指定した場合だけ有効)
overflowString	文字列	error	指定した文字列型の属性値が、ドキュメント管理サービスのスキーマ定義の設定値を超えている場合の処理を指定します。 error：ドキュメント管理サービス側でのエラー (処理の継続はentryErrorIgnoreに依存) check：どの属性でエラーが発生したのかをログ出力する (処理の継続はentryErrorIgnoreに依存) cut：スキーマ定義に合うように文字列を調整して登録する 調整位置がマルチバイト文字にかかる場合は、その文字をカットする
overWriteMode	文字列	overWrite	上書き時の動作を指定します。 overWrite：上書き対象オブジェクトを移動しないで、そのまま上書きを行う moveAndOverWrite：上書き対象オブジェクトをデータ登録先 ("location"で始まるパラメーター) で指定した場所に移動後、上書きを行う
refCopyAttr	ブール値	false	リファレンスオブジェクト生成時に参照先オブジェクトの属性をコピーするかどうかを指定します。 true：コピーする false：コピーしない
refLocationCabinetId	文字列	－	リファレンス登録先のcabinetIdを指定します。
refLocationCondition	検索文字列	－	リファレンス登録先の検索条件を指定します。 (検索条件形式の場合に指定)
refLocationDepthFromSearchRoot			リファレンス登録先の検索範囲となる階層数を指定します。 (refLocationConditionパラメーターを指定した場合だけ有効)
refLocationDrawerName	文字列	－	リファレンス登録先のドロー名を指定します。 (ダイレクト形式でドローを登録先にする場合や検索条件形式でドローを検索の基点とする場合に指定する)
refLocationDrepld	数値	－	リファレンス登録先のdrepldを指定します。 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件形式での検索起点を指定する場合に指定する)

表 : 登録処理パラメーターの一覧

パラメーター名 ("regist:"は除く)	型	デフォルト値	説明
refLocationObjectid	文字列	—	リファレンス登録先のObjectidの文字列表記を指定します。 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件式での検索起点を指定する場合に指定する)
refLocationServiceid	文字列	—	リファレンス登録先のserviceidを指定します。
refMode	文字列	normal	リファレンスオブジェクトのタイプを指定します。 normal : 通常リファレンス hard : ハードリファレンス
refName	文字列	nameと同じ	リファレンスオブジェクトに付加する名前属性の値を指定します。 refNameパラメーターを指定しないで、リファレンスを作成した場合は、参照元と同じ名前で作成されます。
refNextCondition	検索文字列	—	リファレンス登録位置の検索条件を指定します。 (リファレンス登録先オブジェクトを検索起点とする検索条件形式の場合に指定する)
refNextDreplid	数値	—	リファレンス登録位置のdreplidを指定します。 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件形式で検索起点を指定する場合に指定する)
refNextObjectid	文字列	—	リファレンス登録位置のObjectidの文字列表記を指定します。 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件式での検索起点を指定する場合に指定する)
skipMode	アトム [多値]	—	対象オブジェクトの「状態」が、skipModeに指定した値と一致した場合、現在の処理をスキップして、次のエントリーの処理を行います。 オブジェクト登録ファイルのentryModeパラメーターの値が、revisionUp, overWright, mergeの場合にだけ有効です。 複数指定する場合は、「 」（半角縦棒）をデリミタとして挿入します。
stampRuleName	文字列	—	文書が登録されるときに使用するスタンプのスタンプルール名を指定します。 文書が登録されたあとに、指定したスタンプルールでスタンプされた文書として改訂（リビジョンアップ）して登録されます。すでにあるオブジェクトを指定して登録した場合は、いったんオブジェクトが改訂されたあと、スタンプされた文書として改訂して登録されます。 スタンプが失敗したときは、登録したオブジェクトと履歴（リビジョン）は削除され、登録する前の状態に戻します。 <b>参照</b> スタンプの設定については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。
status	アトム	—	オブジェクトに付加する状態属性の値を指定します。

表：登録処理パラメーターの一覧

パラメーター名 ("regist:"は除く)	型	デフォルト値	説明
targetCondition	文字列	－	「リビジョンアップ」、「上書き」、「マージ」で検索条件による対象オブジェクトの指定をする場合に使用します。 locationServer,locationCabinetIdで指定したキャビネット内に存在する、locationConditionに記述した検索条件に該当するオブジェクトを対象オブジェクトとします。 targetLatestEditionとの併用はエラーになります。
targetDrepld	数値	－	「リビジョンアップ」、「上書き」、「マージ」で検索条件による対象オブジェクトの指定をする場合に使用します。 locationServiceId,locationCabinetId,targetDrepldを組み合わせて、対象オブジェクトをダイレクトに指定します。 targetLatestEdition,targetConditionとの併用はエラーになります。
targetLatestEdition	エディションキー文字列	－	「改訂」、「リビジョンアップ」、「上書き」、「マージ」でエディションキーを使った対象オブジェクトの指定をする場合に使用します。 locationServer,locationCabinetIdで指定したキャビネット内に存在する、targetLatestEditionに指定した値を持つ最新エディションのオブジェクトを対象オブジェクトとします。 属性と属性値の組み合わせを記述します。 属性値がnullのものを指定する場合は、属性を記述しません。 targetConditionとの併用はエラーになります。
updateContentInformation	ブール値	false	内容依存情報の更新で、プライマリーコンテンツに依存する属性を更新するかを指定します。 true：更新を行う false：更新を行わない
updateSecondaryContent	アトム [多値]	－	内容依存情報の更新で、生成するセカンダリーコンテンツのラベル名を指定します。 複数指定する場合は、「 」（半角縦棒）をデリミタとして挿入します。

## 3.4 印刷パラメーター一覧

キャプチャリングサービスで使用できる印刷パラメーターの一覧は、次のとおりです。

表：印刷パラメーターの一覧

パラメーター名 ("print:"は除く)	値	説明
baler	on   off   local	ベラー（紙巻き）機能を使用するか否かを指定します。 on : ベラー機能を使用します。 off : ベラー機能を使用しません。 local : デバイスが持つモードを指示します。
btsorter	mode	btsorterパラメーターは、使用できません。
btfolder	mode:type:rotate: corner:revise: width:margin	DocuWideシリーズの紙折を指定します。 mode : off (デフォルト値)、local、fan、cross、particular、w170mm modeがfanの場合、type、rotate、corner、revise、width、marginを指定します。 modeがcrossの場合、type、rotateを指定します。 corner、revise、width、marginの指定は不要です。 modeがoffまたはlocal、w170mmの場合、type、rotate、corner、revise、width、marginの指定は不要です。 modeがparticularの場合、type、rotate、corner、revise、width、marginが指定可能パラメーターの候補値となるが、それぞれ指定可能かどうかは、サービスの論理プリンターに依存します。 type : plane (第1折り (単方向折り)、modeがcrossのときのデフォルト値)、both (第2折り (両方向折り)、modeがcross以外のときのデフォルト値) rotate : true (90度回転排出する)、false (90度回転排出しない、デフォルト値)、cross (部数単位で回転の有無を変える交差スタックの機能を利用する) corner : true (耳折をする)、false (耳折をしない、デフォルト値) revise : true (紙折り補正する)、false (紙折指定しない、デフォルト値) width : normal (0mm、デフォルト値)、wide (+5mm)、narrow (-5mm) 紙折り後、微調整を行います。 margin : 0 (デフォルト値)、20、25、30、50 綴じ代を指定します。単位はmmです。 marginの値は、用紙ごとに指定できる値と、実際のmarginの値が異なっています。指定できる値は、0/20/25/30/50であるが、実際のmargin (綴じ代) の値は、用紙ごとに次のようになります。 DocuWideシリーズの場合 用紙 margin (綴じ代) の値 (mm) A0 縦 そのまま A1 縦/横 そのまま A2 縦/横 0 → 0、それ以外 → 18 A3 縦/横 0 → 0、それ以外 → 105

表：印刷パラメーターの一覧

パラメーター名 ("print:"は除く)	値	説明
color	color: mode	出力カラーを指定します。 color : black (モノクロ、デフォルト値)、red (プラスワンカラー)、256color (256色カラー)、fullcolor (フルカラー) mode : one (1色、デフォルト値)、two (2色) colorがredのとき、何色使うかを指定します。 このパラメーターは、省略できます。
colormap	maptype:[sourcecolor:destcolor]...: type:[color:black:white:threshold]...	colormapパラメーターは、使用できません。
copybanner	mode:name:comment:color:fgcolor: bgcolor	コピーバナーを指定します。 mode : on、off (デフォルト値) modeがonの場合、name、comment、colorを指定します。 modeがoffの場合、nameとcomment、colorの指定は不要です。 name : バナー名を指定します。 comment: コメントを記述します。 color : black (デフォルト値)、red、256color、fullcolor colorに256color、fullcolorを指定したときに指定します。 fgcolor : black、red、green、yellow、blue、magenta、cyan、white bgcolor : black、red、green、yellow、blue、magenta、cyan、white (デフォルト値) colorに256color、fullcolorを指定したときに指定します。
count	num	部数を指定します。 num : 範囲が1~10,000の正整数で、デフォルト値は1です。

表：印刷パラメーターの一覧

パラメーター名 ("print:"は除く)	値	説明
delivery	mode:name: mailAddress: displayName:type: message:format: pwdType: openPassword: pwdType: fullAccessPassword : prohibitDocument Editing: prohibitAnnotation Editing: prohibitPrinting: prohibitCopying: bindFormat	<p>電子配信を指定します。</p> <p>mode : 電子配信を行うか否かを指定します。このパラメーターは、必ず指定します (on, off)。</p> <p>name : 処理対象のサービスに設定されている配信先名を指定します。このパラメーターは、必ず指定します。</p> <p>mailAddress : 依頼者のメールアドレスを指定します。</p> <p>displayName : 依頼者の表示名を指定します。</p> <p>type : この直後のパラメーターが取る値のタイプを指定します。</p> <p>message : 配信メールに記述されるメッセージを指定します。</p> <p>format : 電子配信のときのファイルフォーマットを指定します。</p> <p>pwdType : この直後のパラメーターが取る値のタイプを指定します。</p> <p>openPassword : 文書を開くパスワードを指定します。</p> <p>fullAccessPassword: 文書のフルアクセスパスワードを指定します。</p> <p>prohibitDocumentEditing: 文書の編集を禁止するか否かを指定します (on, off)。</p> <p>prohibitAnnotationEditing: アノテーションの編集を禁止します (on, off)。</p> <p>prohibitPrinting: 印刷を禁止するか否かを指定します (on, off)。</p> <p>prohibitCopying: 転記を禁止する否かを指定します (on, off)。</p> <p>bindFormat : 複数ドキュメントを電子配信する場合に、ドキュメントを1文書にまとめるかどうかを指定します (none, DocuWorksBinder)。</p>

表：印刷パラメーターの一覧

パラメーター名 ("print:"は除く)	値	説明
devstamp	mode:num:color: x:y:rotate:date: comment:page: start:end   auto:num:color: date:comment:pa ge:start:end   autopos:num: color:pos:offx: offy:date:commen t:page:start:end	<p>mode : on、off (デフォルト値)、auto、autopos offの場合、num、color、x、y、rotate、date、 commentの指定は不要です。 autoの場合、x、y、rotateの指定は不要です。 autoposの場合、rotateの指定は不要です。</p> <p>num : スタンプ番号を正整数で指定します (1~30、デ フォルト値は1)。</p> <p>color : black、red、gray スタンプの色を指定します。 機種によって指定できる値が異なります。</p> <p>x : x方向のスタンプ位置を正整数で指定します (0~ 880、デフォルトは0)。</p> <p>y : y方向のスタンプ位置を正整数で指定します (0~ 880、デフォルトは0)。</p> <p>rotate : スタンプの回転角度を指定します。 true (90回転する) false (回転しない、デフォルト値)</p> <p>date : true (日付を付ける) false (日付を付けない、デフォルト値)</p> <p>comment : スタンプのコメントを指定します (ASCII文字列、 12文字まで)。</p> <p>pos : topLeft、topCenter、topRight、middleLeft、 center、middleRight、bottomLeft、 bottomCenter、topLeft (デフォルト値)</p> <p>offx : スタンプのx方向オフセット値を指定します。デー タの向きに対して右方向をx正方向とします。 (-594~594、デフォルト値は0)</p> <p>offy : スタンプの位置からのy方向オフセット値を指定しま す。データの向きに対して下方向をy正方向としま す (-8192~8192、デフォルト値は0)。</p> <p>page : all (すべてのページを印刷) topPage (印刷される最初のページだけに印刷する) lastPage (印刷される最後のページだけに印刷する) select (以降のstart、endに指定した範囲に印刷す る)</p> <p>start : pageにselectを指定した場合にだけ有効です。 1~9,999の正整数です。</p> <p>end : pageにselectを指定した場合にだけ有効です。 1~9,999の正整数です。</p>

表：印刷パラメーターの一覧

パラメーター名 ("print:"は除く)	値	説明
endbanner	mode:name:comment:color:fgcolor:bgcolor	<p>エンドバナーを指定します。</p> <p>mode : on、off (デフォルト値) modeがonの場合、name、comment、colorを指定します。 modeがoffの場合、nameとcomment、colorの指定は不要です。</p> <p>name : バナー名を指定します。</p> <p>comment : コメントを記述します。</p> <p>color : black (デフォルト値)、red、256color、fullcolor colorに256color、fullcolorを指定したときに指定します。</p> <p>fgcolor : black、red、green、yellow、blue、magenta、cyan、white</p> <p>bgcolor : black、red、green、yellow、blue、magenta、cyan、white (デフォルト値) colorに256color、fullcolorを指定したときに指定します。</p>

表：印刷パラメーターの一覧

パラメーター名 ("print:"は除く)	値	説明										
folder	mode:type:rotate: corner:revise: width:margin	<p>DocuWideシリーズの紙折を指定します。</p> <p>mode : off (デフォルト値)、local、fan、cross、particular、w170mm modeがfanの場合、type、rotate、corner、revise、width、marginを指定します。 modeがcrossの場合、type、rotateを指定します。 corner、revise、width、marginの指定は不要です。 modeがoffまたはlocal、w170mmの場合、type、rotate、corner、revise、width、marginの指定は不要です。 modeがparticularの場合、type、rotate、corner、revise、width、marginが指定可能パラメーターの候補値となるが、それぞれ指定可能かどうかは、サービスの論理プリンターに依存します。</p> <p>type : plane (第1折り (単方向折り) modeがcrossのときのデフォルト値) both (第2折り (両方向折り) modeがcross以外ときのデフォルト値)</p> <p>rotate : true (90度回転排出する) false (90度回転排出しない、デフォルト値) cross (部数単位で回転の有無を変える交差スタックの機能を利用する)</p> <p>corner : true (耳折をする) false (耳折をしない、デフォルト値)</p> <p>revise : true (紙折り補正する) false (紙折指定しない、デフォルト値)</p> <p>width : normal (0mm、デフォルト値)、wide (+5mm)、narrow (-5mm) 紙折り後、微調整をします</p> <p>margin : 0 (デフォルト値)、20、25、30、50 綴じ代を指定します。単位はmmです。 marginの値は、用紙ごとに指定できる値と、実際のmarginの値が異なります。指定できる値は、0 / 20 / 25 / 30 / 50であるが、実際のmargin (綴じ代) の値は、用紙ごとに次のようになります。</p> <p>DocuWideシリーズの場合</p> <table> <tr> <td>用紙</td> <td>margin (綴じ代) の値 (mm)</td> </tr> <tr> <td>A0 縦</td> <td>そのまま</td> </tr> <tr> <td>A1 縦/横</td> <td>そのまま</td> </tr> <tr> <td>A2 縦/横</td> <td>0 → 0、それ以外 → 18</td> </tr> <tr> <td>A3 縦/横</td> <td>0 → 0、それ以外 → 105</td> </tr> </table>	用紙	margin (綴じ代) の値 (mm)	A0 縦	そのまま	A1 縦/横	そのまま	A2 縦/横	0 → 0、それ以外 → 18	A3 縦/横	0 → 0、それ以外 → 105
用紙	margin (綴じ代) の値 (mm)											
A0 縦	そのまま											
A1 縦/横	そのまま											
A2 縦/横	0 → 0、それ以外 → 18											
A3 縦/横	0 → 0、それ以外 → 105											
folder	mode:position	<p>ApeosPortシリーズ、ApeosシリーズのZ折りを指定します。</p> <p>mode : off (紙折り処理を行わない：デフォルト値) z (Z折りを行う) modeがoffの場合にpositionは指定不要です。</p> <p>position : left (Z折りの折り方向左折り) right (Z折りの折り方向右折り：デフォルト値)。</p>										

表：印刷パラメーターの一覧

パラメーター名 ("print:"は除く)	値	説明
folder	mode:printside	<p>ApeosPortシリーズ、Apeosシリーズの二つ折り、三つ折りを指定します。</p> <p>mode : off (紙折り処理を行わない：デフォルト値) bi (二つ折りを行う) triZ (外三つ折りを行う) triC (内三つ折りを行う) modeがoffの場合にはprintsideの指定は不要です。</p> <p>printside : 印刷面を指定します。 inside (内側に印刷する) outside (外側に印刷する)</p> <p>パラメーター modeにbi、triC、triZ指定時に、staplerオプションまたはpuncherオプションを同時に指定した場合はエラーになります。</p>

表：印刷パラメーターの一覧

パラメーター名 ("print:"は除く)	値	説明
form	mode:name:comment:scale:num:offset:fgcolor:bgcolor:merge:page:start:end	<p>スタンプを指定します。</p> <p>mode : on (スタンプを使用する) off (スタンプを使用しない。デフォルト値)</p> <p>modeがonの場合、name、comment、pos、scale、num、colorを指定します。 modeがoffの場合、name、comment、pos、scale、num、colorの指定は不要です。</p> <p>name : フォーム名を指定します。</p> <p>comment: コメントを記述します。</p> <p>pos : topLeft、topRight、center、bottomLeft、bottomRight (デフォルト値)</p> <p>オフセットの原点を指定します。</p> <p>x : X方向オフセット量をmm単位で指定します。</p> <p>y : Y方向オフセット量をmm単位で指定します。</p> <p>scale : off (スケール処理を行わない、デフォルト値) scale (データ本体のスケール値を使って処理を行う) select (numにスケール値を指定する) fit (指定された用紙のサイズに合うように自動的にスケール処理を行う) reduce (指定された用紙のサイズを越えるデータに対してだけスケール処理 (縮小) を行う)</p> <p>num : 1.0を100%とした実数値を指定します。 scaleをselectの場合に有効です。</p> <p>color : black (デフォルト値)、red、white、fullcolor、blackを指定するとモノクロになります。 white指定は、何も印刷しないことで、白抜き印刷になります。このパラメーターは省略できます。</p> <p>red、whiteは、プリンターがプラスワンカラー対応機種のみ指定できます。fullcolorは、カラー処理が可能な機種のみ指定できます。このとき、fgcolor、bgcolor、mergeを指定できます。</p> <p>fgcolor : black (デフォルト値)、red、green、yellow、blue、magenta、cyan、white、transparent transparentを指定すると、フォアグラウンド色は透過色として処理します。</p> <p>bgcolor : black (デフォルト値)、red、green、yellow、blue、magenta、cyan、white、transparent transparentを指定すると、バックグラウンド色は透過色として処理します。</p> <p>merge : opaque (上書き、デフォルト値)、multiply (乗算)</p> <p>page : all (すべてのページを印刷) topPage (印刷される最初のページだけに印刷する) lastPage (印刷される最後のページだけに印刷する) select (以降のstart、endに指定した範囲に印刷する)</p> <p>start : pageにselectを指定した場合にだけ有効です。 1~9,999の正整数です。</p> <p>end : pageにselectを指定した場合にだけ有効です。 1~9,999の正整数です。</p>

表：印刷パラメーターの一覧

パラメーター名 ("print:"は除く)	値	説明
imagetype	photo   drawing	印刷データの画像の種類を指定します。 photo : 写真 drawing : 図面
inputtray	auto   manualtray	給紙場所を指定します。 aut : 自動 manualtray: 手差し manualtrayのとき、paperオプションのmediaパラメーターの値autoを同時に指定できません。
Jobname	name	name : ジョブに付けたい名前を指定します。文字数の制限はありません。この値は、Web版管理ツールではジョブ名として表示されます。
mailbox	mode:num	メールボックスを設定します。 mode : off (使用しない)、sort、select num : ビン番号を指定します。 modeがsort、selectのとき有効です。
margin	mode:top:bottom: left:right	マージンを指定します。 mode : on (マージン指定する) off (指定しない、デフォルト値) top : topのマージンをmm単位の整数で指定します。 (0~1,000、デフォルトは0) bottom : bottomのマージンをmm単位の整数で指定します。 (0~1,000、デフォルトは0) left : leftのマージンをmm単位の整数で指定します。 (0~1,000、デフォルトは0) right : rightのマージンをmm単位の整数で指定します。 (0~1,000、デフォルトは0)
multi	on   off	on : 指定されたすべての印刷オブジェクトを一つのジョブとして扱います。 off : 指定されたすべての印刷オブジェクトを別々のジョブとして扱います。
notify	off   start   end   abnormal   startAndEnd	出力依頼したジョブがどのような状態になったときにユーザーに通知させるか指定します。 off : 通知しない (デフォルト値) start : 開始時 end : 終了時 abnormal: 異常終了時 startAndEnd: 開始時と終了時

表：印刷パラメーターの一覧

パラメーター名 ("print:"は除く)	値	説明
nup	pages:orientation: direction:scale: margin:top:left: bottom:right:x:y	N-up出力方法を指定します。 page : N-upのページ数を指定します。このパラメーターは、必ず指定します (1, 2, 4)。 orientation: データの方向を指定します (firstpage)。 direction : N-upの配置方向を指定します。 (toBottomToLeft, toBottomToRight, toLeftToBottom, toLeftToTop, toRightToBottom) scale : スケールを指定します (fit, relative)。 margin : マージンを指定します (on, off)。 top : 上部のマージン (mm) を指定します。 bottom : 下部のマージン (mm) を指定します。 left : 左部のマージン (mm) を指定します。 right : 右部のマージン (mm) を指定します。 x : データ間の横方向マージン (mm) を指定します。 y : データ間の縦方向マージン (mm) を指定します。
offset	mode:pos:x:y	オフセットを指定します。 mode : on (オフセット指定する) off (指定しない、デフォルト値) pos : topLeft, topRight, center, bottomLeft, bottomRight (デフォルト値) オフセットの原点を指定します。 x : X方向オフセット量をmm単位で指定します。 y : Y方向オフセット量をmm単位で指定します。
page	mode:start:end	出力ページを指定します。 mode : on (ページ指定する) off (指定しない、デフォルト値) start : modeにonを指定した場合にだけ有効です。 1~9,999の正整数です end : modeにonを指定した場合にだけ有効です。 1~9,999の正整数です

表：印刷パラメーターの一覧

パラメーター名 ("print:"は除く)	値	説明
paper	media:type:size: length map:type: mapfile	用紙を指定します。このパラメーターは、必ず指定します。 media : tray (トレイ紙) roll (ロール紙) cut (ロール紙のカット) auto (自動用紙選択) ohp (OHPシート) map (用紙マッピング) type : plain (planeも可)、film、translucent、recycle size : A5、A4、A3、A2、A1、A0、B6、B5、B4、LA0、 LA1、LA2、LA3、archE、archD、postalCard mapfile : 変換ファイルの名前を文字列で指定します。 length : * mediaがrollの場合、単位の正整数で指定します。 データの長さで出力したい場合には0を指定します。 * mediaがautoの場合指定しないか、長さをmm単位 の正整数で指定します。データの長さで出力したい場 合には0を指定します。 * mediaがcutの場合、連結数を指定します。
plex	simplex   duplex   tumble	両面印刷の仕方を指定します。 simplex : 片面 (デフォルト値) duplex : 両面長辺綴じ tumble : 両面短辺綴じ
printErrorIgnore	文字列	印刷エラー発生時、処理を続けるかどうかを指定します。 true : 処理を続ける (デフォルト値) false : 当該行で処理を中断して、プログラムを終了
printmode	stack   sort  devsort   unused	stack : スタックモード (デフォルト値) sort : ソートモード devsort : デバイスソートモード devsortは、使用できません。 unused : 丁合い機能を指定しません。
priority	low   middle   high	ジョブの出力優先順序を指定します。 優先度の順は高い方から high > middle > low です。デフォルト値は、middleです。

表：印刷パラメーターの一覧

パラメーター名 ("print:"は除く)	値	説明
puncher	mode:position: holes	<p>パンチ処理を指定します。</p> <p>mode : on (パンチ処理をする) offパンチ処理をしない、デフォルト値) modeがonの場合、positionを指定します。 パンチ機能がサポートされない機種の場合、onを指定するとエラーになります。</p> <p>position : パンチの位置を指定します。 topCenter (デフォルト値)、bottomCenter、middleLeft、middleRight</p> <p>holes : パンチの穴数2 (デフォルト値)、4を指定します。 4穴をサポートしていない機種に対して4を指定した場合はエラーになります。 このパラメーターは省略できます。</p>
resolution	ColorMode: colorValue: grayMode:grayValue	<p>印刷を処理するときデータ変換の解像度を指定できます。カラーデータまたは白黒データを処理する場合に指定できます。パラメーターの前半でカラーデータの、後半で白黒データの解像度を指定します。</p> <p>カラーデータまたは白黒データに対してだけ解像度を指定する場合、指定しないパラメーターを記述しません。</p> <p>例：カラーデータ処理時に対してだけ指定した場合 -resolution max : 300 例：白黒データ処理時に対してだけ指定した場合 -resolution : select:600</p> <p>このオプションはネットワーク (2) 形式のカラー出力プリンターにだけ有効になります。その他のプリンターに対しこのオプションを指定した場合はエラーになります。</p> <p>colorMode,grayMode:printer,max,select,data printer : 論理プリンターに設定されている解像度を使用します。 max : 最大解像度を指定します。 select : 解像度固定で印刷データを作成します。 data : データの解像度でデータを作成します。</p> <p>colorValue,grayValue:72 (電子配信プリンターだけ指定可能) , 200,300,400,600 解像度 (dpi) を指定します。指定された値が有効になるのは、colorModeまたはgrayModeがmax、selectの場合だけ、ColorModeまたはgrayModeがprinter、dataの場合に値が設定されていても無視されます。この場合、値を記述する必要はありません。</p>

表：印刷パラメーターの一覧

パラメーター名 ("print:"は除く)	値	説明
scale	mode: num	<p>スケールを指定します。</p> <p>mode :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>off : スケール処理を行いません (デフォルト値)。</li> <li>scale : データ本体のスケール値を使って処理を行います。</li> <li>select : numにスケール値を指定します。</li> <li>fit : 指定された用紙のサイズに合うように自動的にスケール処理を行います。</li> <li>reduce : 指定された用紙のサイズを越えるデータに対してだけスケール処理 (縮小) を行います。</li> </ul> <p>num : 1.0を100%とした実数値を指定します。modeがselectの場合に有効です。</p>
securityprint	mode:username: documentname: password	<p>セキュリティプリントを指定します。</p> <p>mode : セキュリティプリントを行うか否かを指定します。このパラメーターは、必ず指定します (on, off)。</p> <p>username: プリンターの本体操作パネル上に表示される「ユーザー ID」を入力します。このパラメーターは、必ず指定します。</p> <p>documentname: 印刷依頼するArcEPSの1ジョブに対して、本体操作パネル上で出力指示するファイルを特定するための文字列を入力します。</p> <p>password: セキュリティプリントするときの暗証番号を入力します。</p>
server	URL	<p>出力先のプリンターのプリンター URLを指定します。このオプションは、必ず指定します。URLは、http:// {ArcEPSのプリントサービスサーバーのホスト名} /eps/ {論理プリンター名} になります。</p>
sorter	mode:num:foldmode	<p>10ビンスタッカフィニッシャーパラメーターの使用方法を設定します。</p> <p>mode : off,select,sort,stack,local (デフォルト値: off) ソーターの使用の仕方を設定します。ソーターに紙折機能がある場合で紙折だけ指定したいときはoffを指定します。</p> <p>num : 正整数 (範囲: 1~10、設定の単位: 1、デフォルト値: 1) ビン番号を正整数で指定します。 modeがselectの場合、numは出力ビン指定します。必ず指定します。 modeがsort、stackの場合、numは出力開始ビン指定します。省略できます。 modeがoff、localの場合、不要です。</p> <p>foldmode: off,on,local (デフォルト値: local) 紙折機能がついたソーターの場合、紙折を行うか否かを指定します。 デフォルト値がlocalであるため、使用しない場合は明示的にoffを指定する必要があります。</p> <p>例: -sorter off : on このパラメーターは省略できます。</p>

表：印刷パラメーターの一覧

パラメーター名 ("print:"は除く)	値	説明
stacker	mode:position	スタッカを設定します。 mode : off、select、sizemix、sort position : top、bottom (デフォルト値) modeがselectの場合だけ有効です。

表：印刷パラメーターの一覧

パラメーター名 ("print:"は除く)	値	説明
stamp	mode:name:comment:pos:scale:num:color:fgcolor:bgcolor:merge:page:start:end:offx:offy	<p>スタンプを指定します。</p> <p>mode : n (スタンプを使用する) off (スタンプを使用しない。デフォルト値) modeがonの場合、name、comment、pos、scale、num、colorを指定します。 modeがoffの場合、name、comment、pos、scale、num、colorの指定は不要です。</p> <p>name : スタンプ名を指定します。</p> <p>comment: コメントを記述します。</p> <p>pos : topLeft、topCenter、topRight、middleLeft、center、middleRight、bottomLeft、bottomCenter、bottomRight (デフォルト値)</p> <p>scale : off (スケール処理を行わない、デフォルト値) scale (データ本体のスケール値を使って処理を行う) select (numにスケール値を指定する)</p> <p>num : 1.0を100%とした実数値を指定します。 scaleがselectの場合に有効です。</p> <p>color : black (デフォルト値)、red、white、fullcolor blackを指定するとモノクロになります。 white指定は、何も印刷しないことで、白抜き印刷になります。 このパラメーターは省略できます。 red、whiteは、プリンターがプラスワンカラー対応機種のみ指定できます。fullcolorは、カラー処理が可能な機種のみ指定できます。このとき、fgcolor、bgcolor、mergeを指定できます。</p> <p>fgcolor : black (デフォルト値)、red、green、yellow、blue、magenta、cyan、white、transparent transparentを指定すると、フォアグラウンド色は透過色として処理します。</p> <p>bgcolor : black (デフォルト値)、red、green、yellow、blue、magenta、cyan、white、transparent transparentを指定すると、バックグラウンド色は透過色として処理します。</p> <p>merge : opaque (上書き、デフォルト値)、multiply (乗算)</p> <p>page : all (すべてのページを印刷、デフォルト値) topPage (印刷される最初のページだけに印刷する) lastPage (印刷される最後のページだけに印刷する) select (以降のstart、endに指定した範囲に印刷する)</p> <p>start : pageにselectを指定した場合にだけ有効です。 1~9,999の正整数です。</p> <p>end : pageにselectを指定した場合にだけ有効です。 1~9,999の正整数です。</p> <p>offx : スタンプの位置からのx方向オフセット値をmm単位の整数で指定します (0~1,000、デフォルトは0)。 データの向きに対して右方向をx正方向とします。 このパラメーターは省略できます。</p> <p>offy : スタンプの位置からのy方向オフセット値をmm単位の整数で指定します (0~1,000、デフォルトは0)。 データの向きに対して下方向をy正方向とします。 このパラメーターは省略できます。</p>

表：印刷パラメーターの一覧

パラメーター名 ("print:"は除く)	値	説明
stapler	mode:position	ホチキス処理を指定します。 mode : on (ホチキス処理をする) off (ホチキス処理をしない、デフォルト値) position : topLeft (デフォルト値)、bottomLeft、topCenter、 bottomCenter、topRight、bottomRight、 middleLeft、middleRight
startbanner	mode:name:comment: color:fgcolor: bgcolor	スタートバナーを指定します。 mode : on、off (デフォルト値) modeがonの場合、name、comment、colorを指定 します。 modeがoffの場合、nameとcomment、colorの指定 は不要です。 name : バナー名を指定します comment: コメントを記述します。 color : black (デフォルト値)、red、256color、fullcolor fgcolor : black、red、green、yellow、blue、magenta、 cyan、white colorに256color、fullcolorを指定したときに指定し ます。 bgcolor : black、red、green、yellow、blue、magenta、 cyan、white (デフォルト値) colorに256color、fullcolorを指定したときに指定し ます。
tray	default   top  middle	出力するトレイを指定します。 default : IOT本体側に設定されているトレイ top : IOT上部の出力トレイ middle : IOT側部の出力トレイ